

大阪大学大学院人文学研究科
日本学専攻(基盤日本学コース)

年報 2022

各専門分野・コースにおける
教育・研究活動の概要

大阪大学大学院人文学研究科・文学部
評価・広報室

【凡 例】

- I. 組織については、教員、在學生は 2022 年 5 月 1 日を基準とし、この時点での教員および在學生の現員を示す。また修了生については、2022 年度(2023 年 3 月修了)について記す。
- II. 大学院生の研究業績、受賞等は、2022 年度に在籍した者が、その在籍期間中に発表あるいは授与されたものについて記す。また 2022 年度におこなわれた学位授与について、課程博士と論文博士にわけて記載する。
- III. 教員の研究活動については、原則として 2022 年度に各専門分野・コースに在職した者のデータを示す。研究業績については 2022 年度の在籍期間中に発表されたものを記載する。2022 年度中に、本研究科大学院生であったものが本研究科教員になった場合には、その大学院生時代に発表した研究業績をあわせて記入する(この場合には大学院生の研究業績の欄にも同じ業績が示される)。なお受賞についても 2022 年度中に授与されたものを記載する。

現代日本学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

新型コロナウイルスに関連した行動制限が少なくなるなか、メディア授業、オンラインを主体としたコミュニケーションから、対面による学生との交流機会が回復された。そのいっぽうで感染者は依然として発生するため、状況に応じてハイブリッドでの講義や演習を行うなど、依然より柔軟な対策が求められた。そのために新しい機器の導入や知識の拡充をはかり、おおむね対応できたように思われる。特に個人的なコミュニケーションが必要とされる、卒業論文・修士論文・博士論文の作成についての指導などは、オンラインツールを使ってより頻繁に行うことができたという側面もあり、対面指導がないことの不利益を上回る効果もみられた。

他方で学生には状況への順応がみられ、若手研究者フォーラムなど、研究科によって主催されるイベントへ積極的に参加する様子がみられた。オンラインの効率の良さを活かしてより多く研究会やシンポジウムなどに参加、聴講する様子もみられた。渡航の制限があるために、国外の研究者の招聘、学生の受け入れは難しかったが、帰国困難な学生は同級生や学生の助けや助言をより密に受けながら、できる限りの研究調査を遂行することができた。以上を鑑み、目標はおおむね達成されたと考えるが、今後もさらなる教育体制の充実をはかり、新型コロナによる影響がなくなる将来の状況に速やかに移行できるよう、事前対策に力を注ぐ予定である。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 1 名 准教授 3 名 講師 0 名 助教 0 名

教 授：宇野田尚哉

准 教 授：北村 毅、安岡 健一、中嶋 泉

1-2-2 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		6	5	0	0	0	1
留学生	国費	1	0	0	0	0	0
	私費	0	1	0	1	0	0

*うち留学生 2 名、社会人学生 3 名

【文学研究科】 日本学		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		3	6	0	0	0	0

留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	2	1	0	0	0	0

*うち留学生 3 名、社会人学生 2 名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	1	1	0

1—3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022 年度)

【人文学研究科】 0 名

【文学研究科】 0 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

計 0 名

1—4. 地域連携

1-4-1 社学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1—5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注) 3 年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1 : 0 名 DC2 : 0 名 PD : 0 名 RPD : 0 名 (計 0 名)

【文学研究科】 DC1 : 0 名 DC2 : 0 名 PD : 0 名 RPD : 0 名 (計 0 名)

1—6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

計	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
---	------	------	------	------	------	------

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等講演会	その他	計
人文学研究科	0	3	2	1	1	7
文学研究科	0	0	2	0	0	2
計	0	3	4	1	1	9

1-6-3. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

平尾漱太「真山青果＜幕末維新劇＞論－「昭和戊辰」前後の「明治維新」認識を手がかりとして」『社会文学』第 57 号, pp. 88-100, 査読有, 2023/3/1

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

濱 恵介「ポスト冷戦期における非核条例の歴史的考察：非核自治体宣言の具現化として」, 同時代史学会 2022 年度大会,同時代史学会,日本大学法学部 10 号館（対面）, 2022/12/3

濱 恵介「苦小牧市非核・平和都市条例の制定過程」, 苦小牧非核平和都市条例 20 周年記念集会,苦小牧非核平和条例を考える会,苦小牧市住吉コミュニティセンター（対面）, 2022/7/17

松永 健聖「自分自身の「男性性」と向き合って：ジェンダー史研究との出会い」, 公開講演会 若手研究者が語る「研究と

の出会い」シリーズ,大和大学社会学部自主ゼミ G,大和大学（対面）, 2022/10/22

松永 健聖「売春防止法前史としての反基地運動：奈良 R・R センターに反対した大学生たちの活動に着目して」, 同時代史学会 2022 年度大会,同時代史学会,日本大学（対面）, 2022/12/3

松永 健聖「1950 年代の反基地運動と「子どもを守る」運動の展開／奈良 R・R センター反対運動：浜田博生の経験を手がかりに」, 科研研究会「占領下の「被爆地復興言説」と女性」,科研 B「占領下の「被爆地復興言説」と女性」（広島大学）,広島大学（対面）, 2023/1/22

松永 健聖「豊中から戦争を考える：阪大日本学研究室と豊中市役所の取り組みから」, 平和首長会議 平和教育ウェビナー「青少年による平和活動報告会」,平和首長会議,オンライン（オンライン）, 2023/2/4

李 嘉棣「『世界史の哲学』から見た戦後世界—高山岩男を手がかりとして」, 日本思想史学会 2022 年度大会,日本思想史学会,同志社大学今出川校地新町キャンパス（対面）, 2022/11/6

【文学研究科】

〔博士前期〕

Balzacchi de Moura Morais Fernanda「オーラルヒストリーを用いた在日ブラジル人学校史の試みー滋賀県日本ラチーノ学院を事例にー」, 第6回若手研究者フォーラム, 大阪大学人文学研究科, 大阪大学、豊中キャンパス文法経本館2F (ハイブリッド), 2022/9/14

西谷 元気「1970年代再考ー第6次『思想の科学』を手がかりとしてー」, 第7回若手研究者フォーラム, 大阪大学人文学研究科, 大阪大学、豊中キャンパス文法経本館2F (ハイブリッド), 2023/3/24

〔博士後期〕

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1ー7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	1	0	0	0	1	0	0	1

〔博士後期〕

就職	その他	合計
----	-----	----

研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	1	0	0	1	0	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

2022 年度も引き続き、体外的な研究交流はオンラインを中心とした交流に留まったが、各教員は専門分野をつうじた他大学、研究機関との交流を継続した。とりわけ国際的なシンポジウムや研究連携などは、渡航の必要がない分負担も少なく、余力を調査や発表成果につなげることができる側面もあった、連携も一層深まりつつある。パンデミック後の展開を見据え、国外の研究機関からの学生や研究者からのアプローチも増え始め、日本学が内外の研究者にとって重要な研究拠点として再び機能を回復する兆しがある。

『日本学報』は執筆者をより広くつのり、次年度合併号として発行される予定である。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2—3. 教員の研究活動

宇野田 尚哉 教授

1967 年生。1993 年大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了、1996 年同後期課程単位修得退学。博士（文学）。2000 年神戸大学国際文化学部講師、2001 年同助教授、2007 年同大学大学院国際文化学研究科准教授。2010 年大阪大学大学院文学研究科准教授、2017 年同教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：日本思想史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:宇野田尚哉

課題番号:22K00339

研究題目:サークル誌からミニコミ誌へ:戦後文化運動研究の新展開

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本思想史学会・総務委員, 2022 年 10 月～2024 年 9 月

北村 毅 准教授

1973 年生。2006 年早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。2007 年早稲田大学高等研究所助教、2009 年同准教授。2010 年早稲田大学琉球・沖縄研究所客員准教授。2015 年より大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：文化人類学・民俗学、オーラルヒストリー

1. 論文

北村毅「戦争の批判的家族誌を書く——家族のヴァルネラビリティをめぐるオートエスノグラフィ」『文化人類学』第 87 巻第 2 号, pp.285-305, 査読有, 2022/9/30

北村毅「《特集》オートエスノグラフィで拓く歴史と感情——序」『文化人類学』第 87 巻第 2 号, pp.191-205, 査読有, 2022/9/30

2. 著書（単著・編著）

北村毅他(共著)『シリーズ 戦争と社会 5:変容する記憶と追悼』岩波書店, pp. 193-214, 2022/4/22

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

北村毅 戦争トラウマ:／下 心の病語れぬ兵士 軍部、国民に存在否定(コメント「家族関係に影響」)『毎日新聞』, 2022/8/17

4. 口頭発表

北村毅「コメント」, JOHA 研究交流集会「沖縄戦をいかに書くか」, 日本オーラル・ヒストリー学会, 沖縄県立博物館・美術館・美術館講座室(ハイブリッド), 2023/3/11

北村毅「日本の戦後処理再考——援護行政における行方不明者の不明について」, 同時代史学会・第 34 回関西研究会, 同時代史学会, (オンライン), 2023/3/10

北村毅「記者会見」, PTSD の日本兵と家族の思いと願い証言集会, PTSD の復員日本兵と暮らした家族が語り合う会, 武蔵村山市民会館(対面), 2022/8/7

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:北村毅

課題番号:19K01224

研究題目:軍事環境下の子どもの医療人類学的研究—沖縄戦から連なる暴力的状況に着目して

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

国立民族学博物館共同研究「オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究」2018 年 10 月-2023 年 3 月

9. 地域連携による研究活動状況

「平和啓発事業に関する豊中市との連携協定」2021 年 4 月～現在に至る

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

豊中市人権平和センター・業務委託事業者選定評価委員会 委員, 2023 年 1 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

上方文化芸能協会・運営委員, 2016 年 10 月～2023 年 3 月

国際日本学研究会・編集委員長, 2016 年 4 月～現在に至る

安岡 健一 准教授

1979 年生。2009 年京都大学大学院農学研究科博士課程卒業、2011 年農学博士（京都大学）取得。日本学術振興会特別研究員、飯田市歴史研究所研究員。2015 年に大阪大学大学院文学研究科特任講師（常勤）、2017 年 4 月同准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：日本近現代史

1. 論文

安岡健一「聞き書き・オーラルヒストリー・「个体史」」『現代思想』第 50 巻第 13 号, pp.128-139, 査読無, 2022/10/31

安岡健一(共著)「語り」を残し、使うために:沖縄・久場崎の戦後引揚プロジェクトを事例に」『日本オーラル・ヒストリー研究』第 18 号, pp.169-187, 査読無, 2022/10/31

2. 著書 (単著・編著)

安岡健一他(分担執筆)「聞き取り／オーラルヒストリー」『論点・日本史学』ミネルヴァ書房, pp. 348-349, 2022/8/12

安岡健一(分担執筆)「農業機械の受容と女性たちの健康学習:長野県下伊那郡松川町の事例から」『農業開発の現代史:冷戦下のテクノロジー・辺境地・ジェンダー』京都大学学術出版会, pp. 381-403, 2022/7/29

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

安岡健一(書評)「高田雅士『戦後日本の文化運動と歴史叙述:地域のなかの国民的歴史学運動』」『北陸史学』第 71 号, pp.77-84, 査読無, 2023/1/30

安岡健一「「すごい人」「展示の印象ない」70 年の大阪万博、地元の記憶は」『朝日新聞』, 2022/9/29

安岡健一(書評)「足達太郎、小塩海平、藤原辰史『農学と戦争』」『村落社会研究ジャーナル』第 28 巻第 2 号, pp.43-44, 査読無, 2022/4/25

4. 口頭発表

安岡健一「戦後日本の農業協同組合による生活改善活動の展開 ―「生活基本構想」(1970 年)までを中心に―」, 2023 年日本農業史学会研究報告会, 日本農業史学会, 法政大学(対面), 2023/3/20

安岡健一「コメント」, 人文学林キックオフ・シンポジウム, 大阪大学大学院人文学研究科, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/3/8

安岡健一「コメント(学会シンポジウム「JOHA はどこから来て、どこに向かうのか?」」, 日本オーラル・ヒストリー学会 第 20 回大会, 日本オーラル・ヒストリー学会, 立教大学(ハイブリッド), 2022/9/10

安岡健一「コメント(竹沢泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ編『人種主義と反人種主義:越境と転換』について)」, 日仏共同研究 竹沢泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ編『人種主義と反人種主義:越境と転換』(京都大学学術出版会、2022 年)出版記念シンポジウム, 京都大学人文科学研究所, キャンパスプラザ京都(ハイブリッド), 2022/7/16

安岡健一「1965 年再考―忘却と想起の結節点として」, 翰林大学校日本学研究所 国際シンポジウム, 翰林大学校日本学研究所, 翰林大学校(オンライン), 2022/7/15

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:安岡健一
課題番号: 20K00936
研究題目:戦後日本における「自分史」の展開に関する研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

「寺本知生誕110年イベントに向けた聞き取りプロジェクト」一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会:
豊中市で「人権文化」を提唱してきた寺本知氏の関係者に聞き取りをおこなう地域団体に対して、オーラルヒストリーの専門家として助言をしている。

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

三木市史通史編纂委員会・現代史部会委員, 2022 年 4 月～現在に至る
日本オーラルヒストリー学会・研究活動担当理事, 2019 年 9 月～現在に至る

中嶋 泉 准教授

国際基督教大学教養学部卒。リーズ大学大学院修士課程、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員を経て、一橋大学大学院言語社会研究科博士課程単位取得満期退学。博士(学術)(一橋大学)。広島市立大学芸術学部准教授、東京都立大学人文科学研究科准教授。2020 年 10 月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻: 日本文学

1. 論文

中嶋泉 「「問い直し」の旅へ」『渡辺泰子「A MAP THEY COULD ALL UNDERSTAND.」』, 査読無, 2022/7
Nakajima, Izumi. “Anti-action: Atsuko Tanaka and the Aesthetics of Mass Culture in Postwar Japan” *Les cahiers du musée national d’art moderne* 159, 査読有, 2022/4

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

Nakajima, Izumi. (Book Review) “Viva Video! Art and Life of Shigeo Kubota” *CAA Review*, 査読有, 2022/7/14

4. 口頭発表

中嶋泉 「日本現代美術批評と女性美術家」, 「生産／実践としての批評」(Art Criticism as Creation/ Practice), Yumiko Chiba Associates / 文化庁, 六本木ヒルズ ハリウッドビューティプラザ ハリウッド大学院大学(対面), 2023/3
中嶋泉 「英訳書籍刊行記念トーク『美術の日本近現代史: 制度・言説・造型』」, 文化庁アートプラットフォーム シンポジウム「日

本のアート振興のこれから:5 カ年を振り返り今後を考える」,文化庁アートプラットフォーム事業,国立新美術館(ハイブリッド), 2023/2/23

中嶋泉「女性たちの近現代美術史 美術家と作品の再解釈について」, 寝屋川市民セミナー,寝屋川市立男女共同参画推進センター(対面), 2022/7/16

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、若手研究、代表者:中嶋泉

課題番号:19K20582

研究題目:「女流画家」のジェンダー的言説分析ー占領期・ポスト占領期の女性運動の一側面として

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

文化庁アートプラットフォーム翻訳ワーキンググループ・選書チームメンバー, 2020 年 7 月～現在に至る

日 本 史 学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

- (1)→各時代（古代・中世・近世・近代）で開講されている講義によって、日本史研究の基礎的知識の伝授に努めた。また卒論演習・大学院演習・修士論文作成演習・博士論文作成演習などの場におけるきめ細かな指導により、論文作成能力の向上を図った。また 7 月に院生報告会、10 月に卒論・修論中間発表会を開催し、4 年生・院生等が日本史学研究室構成員全員の前で研究発表をする機会を設けた。1 月には、専修大学名誉教授の大谷正氏を招いて研究室例会を実施した。また、歴史学方法論講義において、日本史・西洋史・東洋史などの枠を超えて最新の歴史学の方法論に触れる機会を設け、歴史教育論演習では高校の現職教員とともに歴史教育のあり方を探求した。
- (2)→各時代で開講されている史料講読演習によって、史料解釈能力や古文書解読能力の育成に努めた。また多数開講した演習を通じて、先行研究への批判的態度や史資料を徹底して収集する姿勢を培うとともに、プレゼンテーション能力を養った。
- (3)→新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止していた春の新入生歓迎小旅行、秋の研究室旅行を 3 年ぶりに実施し、フィールドワークの方法について習得させた。また自治体史編纂事業への協力についても、新型コロナウイルス感染症への対策の必要から、現地調査・史料整理の実践的能力の養成に影響が生じた。近世の学外における古文書調査については、公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会との間での教育活動に関する協力関係に基づき、感染対策の観点から少人数とすることで実施した。
- (4)→増加しつつある留学生の研究能力のレベルアップに努めた。
- (5)→日本史学研究室では、旧河内国古市郡駒ヶ谷村西應寺文書の整理・研究を行った。その他、大阪大学大学院文学研究科日本史研究室と大阪府交野市教育委員会との間で 2020 年 3 月まで締結されていた協定の終了後も、両者が共同して、交野市域に残された古文書（旧河内国交野郡私部村原田家文書、同村無量光寺文書）の調査・整理を行った。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 3 名 准教授 2 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：飯塚 一幸、川合 康、市 大樹

准 教 授：伴瀬 明美、野村 玄

助 教：北泊謙太郎

1-2-2 在学生（2022 年度 5 月現在）

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		11	3	0	0	3	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0

	私費	3	0	0	0	0	0
--	----	---	---	---	---	---	---

*うち留学生 3 名、社会人学生 1 名

【文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		18	18	0	0	3	0
留学生	国費	1	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 1 名、社会人学生 4 名

1-2-3 修了生（2022 年度）

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	13	3	1

1—3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022 年度）

【人文学研究科】 0 名

【文学研究科】 0 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

計 0 名

1—4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

令和 4 年度交野市古文書集中調査、交野市教育委員会社会教育課文化財係（参加者：上田将義・山本拓海・福本夏那・下内大輔・秋山真央〔以上、日本史学（学部学生）〕、山村陽仁・下野航太〔以上、日本史学（博士前期）〕、藤井滉良・網沢広貴〔以上、日本史学（博士後期）〕）、2022 年 12 月 3 日～12 月 4 日

滋賀県多羅尾学区の古文書勉強会、多羅尾学区自治振興会（講師：平田良行〔日本史学（博士後期）〕）、2021 年 6 月 18 日～2023 年 3 月 18 日（計 4 回）

関西学院大学人権教育研究室研究協力員、関西学院大学人権教育研究室（研究協力員：菊池康貴〔日本史学（博士後期）〕）、2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1—5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】3名

豊田 裕章
島津 毅
柳沢 菜々

【学術振興会特別研究員】 注) 3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1: 1名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計1名)

【文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 2名 PD: 0名 RPD: 0名 (計2名)

1—6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	3(0)	0(0)	0(0)	5(0)	8(0)
文学研究科	15(15)	4(4)	0(0)	1(0)	5(0)	25(19)
計	15(15)	7(4)	0(0)	1(0)	10(0)	33(19)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	9	7	8	1	25
文学研究科	0	28	9	0	2	39
計	0	37	16	8	3	64

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕

河野七海「トランスインペリアル・ヒストリーからみる東アジア経済成長の再考—歴史教育における戦前と戦後の「接続」を目指して—(※足立悠輔氏・井上健太郎氏・佐藤武氏・田中聡一氏との共著)」『大阪大学歴史教育研究会成果報告書シリーズ』第20号, pp.35-71, 査読無, 2023/3/31

早川涼介「トランスインペリアル・ヒストリーの視座から捉え直すアジア系移民—中・印・日移民の多面的な役割から見る戦間期の時代性—(※磯部宗志氏・大畑直也氏・花田光輝氏との共著)」『大阪大学歴史教育研究会成果報告書シリーズ』第20号, pp.1-34, 査読無, 2023/3/31

〔博士後期〕

北山 航「室町期における河内国金剛寺の動向」, 川合康編『河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会史の研究』(令和元～令和4年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)研究成果報告書), pp.71-87, 査読無, 2023/3/31

辻尾 榮市「黒竜江省雅克薩戦役における清代戦船の復元」『郵政考古紀要』第85号, pp.42-65, 査読無, 2022/3/31

辻尾 榮市「中国浙江省蕭山跨湖橋遺跡の刳舟再考」『郵政考古紀要』第86号, pp.128-143, 査読無, 2022/6/23

辻尾 榮市「中国四川省宜賓市珙県洛表鎮「棘人」懸棺葬墓」『郵政考古紀要』第87号, pp.34-51, 査読無, 2022/9/30

辻尾 榮市「福建省泉州后渚港海洋船に見る宋元時代の海上交通」『名古屋大学追悼論集刊行会編『渡辺誠先生追悼論集』, pp. 1-10, 査読無, 2023/1/1

辻尾 榮市「宋代に見る造船」『大竹憲治先生古稀記念論文集刊行会編『旃檀林の考古学Ⅱ』, pp. 1-10, 査読無, 2023/3/31

【文学研究科】

〔博士前期〕

エミル・マルテ・アンデルセン「日本における亡命百済・高句麗移民とその子孫の同化過程」『大阪大学・関西大学・京都府立大学・明治大学 4 学合同考古学・古代史大学院生研究交流プログラム 成果報告書』2022 年度, pp.42-49, 査読無, 2023/2/28

鷺見涼太「啓に関する基礎的考察 : 七・八世紀における受容と展開」『史学雑誌』第 131 巻第 10 号, pp. 1-23, 査読有, 2022/10/15

〔博士後期〕

糸川風太「近世幕府海運体制の特質と諸問題 : 城米輸送を対象として」『ヒストリア』第 295 号, pp. 120-143, 査読有, 2022/12/20

岡田康佑「賑給における寡の検討」『歴史評論』第 872 号, pp. 38-47, 査読有, 2022/12/1

菊池康貴「総合学習における表現力向上の取り組み—演劇教育実践 2 年目を終えて—」『教育研究集録』第 29 号, pp. 74-77, 査読有, 2023/2/1

菊池康貴「観応擾乱期における南朝皇族に関する一考察—中国・九州地方を題材として—」『七隈史学』第 25 号, pp. 41-54, 査読有, 2023/3/31

車谷 航「明応年間における和平交渉の展開と「二人の将軍」」『戦国史研究』第 85 号, pp. 1-14, 査読有, 2023/3/25

佐藤一希「文政～弘化期の朝廷における新清和院の地位—仁孝天皇との関係を中心に—」『史林』第 105 巻第 2 号, pp. 36-74, 査読有, 2022/3/31

佐藤一希「近世天皇家の追善仏事と泉涌寺・般舟院」『日本研究』第 65 号, pp. 359-422, 査読有, 2022/10/31

佐藤一希「上御霊神社相殿に祀られた怨霊—十九世紀における皇位継承問題をめぐる御霊信仰の展開—」『京都民俗』第一巻第 40 号, pp. 49-64, 査読有, 2022/11/30

佐藤一希「近世天皇・女院の葬送儀礼と門跡寺院—「宝龜御用」をめぐる天台宗寺門派門跡の動向を中心に—」『歴史学研究』第 1031 号, pp. 25-42, 査読有, 2023/1/1

佐藤一希「寛政～文化期の皇位継承過程と光格天皇—中宮欣子と皇子をめぐる動向を中心に—」『史学雑誌』第 132 巻第 3 号, pp.1-28, 査読有, 2023-03

高岡 萌「大正期における官立高等学校誘致運動の展開—佐賀高等学校を事例に—」『日本教育史学会紀要』第 13 号, pp.1-19, 査読有, 2023/3

田村 亨「「天野殿」光厳院と河内国金剛寺」, 川合康編『河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会史の研究』(令和元～令和 4 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C) 研究成果報告書), pp.57-70, 査読無, 2023/3/31

寺西厚史「昭和初年のラジオにおける放送種目としての「歌謡曲」の成立過程」『阪大音楽学報』第 19 号, pp. 23-45, 査読有, 2023/3/31

永野弘明「名張郡司丈部氏の下司化と荘民」『古文書研究』第 93 号, pp. 63-76, 査読有, 2022/6/27

永野弘明「鎌倉前中期の河内国金剛寺と寺辺領—所領経営をめぐる女院女房と地域社会—」『鎌倉遺文研究』第 50 号, pp. 48-71, 査読有, 2022/10/20

永野弘明「日本中世前期の在地領主・在地集団・家—シンポジウム「首長墓系譜の再検討」に寄せて—」『古代学研究会 2022 年度拡大例会シンポジウム資料集 首長墓系譜の再検討』, pp. 151-161, 査読無, 2022/12/17

永野弘明「備後国大田庄の立荘をめぐる人的諸関係」『待兼山論叢 (史学篇)』第 56 号, pp. 1-26, 査読有, 2022/12/26

永野弘明「中世後期の金剛寺寺辺にかんする試論—地方寺院の子院による土地売買と寺領経営—」, 川合康編『河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会史の研究』(令和元～令和 4 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C) 研究成果報告書), pp. 57-70, 査読無, 2023/3/31

永山 愛「康正二年造内裏段銭の収納機関—国立国会図書館本「造内裏段銭并国役引付」の検討から」志賀節子・三枝暁

子編『日本中世の課税制度—段銭の成立と展開—』、『アジア遊学』第 270 号, 勉誠社, pp.62-76, 査読無, 2022/5/30
永山 愛「金剛寺文書の成巻・整理・調査について—近代以降における調査を中心に—」『川合康編『河内国金剛寺文書
に基づく中世地域社会史の研究』(令和元～令和 4 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C) 研
究成果報告書)』, pp. 88-100, 査読無, 2023/3/31
濱田恭幸「近代移行期における水利秩序と地方行財政」『ヒストリア』第 295 号, pp. 173-197, 査読有, 2022/12/20
望月みわ「日露戦争における軍事郵便制度と運用実態—逓信省官吏の動向を中心に—」『交通史研究』第 101 号,
pp. 35-65, 査読有, 2022/9/20
望月みわ「明治期における在清日本郵便局の展開—対清通信利権をめぐる逓信省の積極化—」『史学雑誌』第 131 巻第 9
号, pp. 21-46, 査読有, 2022/9/20

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕

大橋咲菜「室町期の荘園支配と損免交渉—東寺領播磨国矢野荘を中心に—」, 日本史研究会中世史部会・大阪歴史学会
中世史部会合同卒業論文報告会, 日本史研究会・大阪歴史学会(オンライン), 2022/8/7
大橋咲菜「室町期の荘園支配と損免交渉—東寺領播磨国矢野荘を事例に—」, 大阪歴史科学協議会若手研究者問題関
心報告, 大阪歴史科学協議会, 福島区民センター(ハイブリッド), 2022/8/29
大橋咲菜「室町期の荘園支配と損免交渉—東寺領播磨国矢野荘を事例に—」, 第 6 回若手研究者フォーラム, 大阪大学
大学院人文学研究科研究推進室, 大阪大学文法経本館大会議室(ハイブリッド), 2022/9/14
今北 潤「論評: 平川南「第 7 章 国・群・里および村を結ぶもの I—駅家と駅制」, 歴史学入門講座実行委員会勉強会,
第 39 回歴史学入門講座実行委員会(ハイブリッド), 2023/3/13
河野七海「トランスインペリアル・ヒストリーからみる東アジア経済成長の再考—歴史教育における戦前と戦後の「接
続」を目指して—(※足立悠輔氏・井上健太郎氏・佐藤武氏・田中聡一氏との共同報告)」, 大阪大学歴史教育研究会
第
147 回例会, 大阪大学歴史教育研究会, 大阪大学全学教育推進機構管理・講義 A 棟(ハイブリッド), 2022/12/17
河野七海「近世後期の手習塾にみられる地域性—遠江国有玉下村の事例から—」, 地方史研究協議会第 63 回日本史関
係卒業論文発表会, 地方史研究協議会(オンライン), 2022/4/16
早川涼介「明治初期の京都府における教化活動と学校教育」, 第 3 回関西三学会合同卒論報告会, 日本史研究会・大阪歴
史学会・大阪歴史科学協議会(オンライン), 2022/8/21
早川涼介「トランスインペリアル・ヒストリーの視座から捉え直すアジア系移民—中・印・日移民の多面的な役割から
見る戦間期の時代性—(※磯部宗志氏・大畑直也氏・花田光輝氏との共同報告)」, 大阪大学歴史教育研究会第 147 回
例会, 大阪大学歴史教育研究会, 大阪大学全学教育推進機構管理・講義 A 棟(ハイブリッド), 2022/12/17
山田雄翔「儀礼に見る足利義昭の幕府再興」, 日本史研究会中世史部会・大阪歴史学会中世史部会合同卒業論文報告会,
日本史研究会・大阪歴史学会(オンライン), 2022/8/7
山田雄翔「越前滞在期における足利義昭の幕府再興—元服の儀を事例として—」, 大阪歴史科学協議会若手研究者問
題関心報告, 大阪歴史科学協議会, 福島区民センター(ハイブリッド), 2022/8/29
山田雄翔「永禄・元亀年間における足利義昭と近臣」, 第 6 回若手研究者フォーラム, 大阪大学大学院人文学研究科研究
推進室, 大阪大学文法経本館大会議室(ハイブリッド), 2022/9/14
〔博士後期〕
北山 航「室町期における河内国金剛寺の動向」, 第 13 回金剛寺文書研究会, 金剛寺文書研究会, 河内長野荘(対面),
2022/9/3
北山 航「室町期における東寺奉行の就任経緯と役割変化」, 東寺文書研究会, 東寺文書研究会, 東京大学史料編纂所(対
面), 2022/12/3
北山 航「応仁・文明の乱後の「世上静謐」と室町幕府奉行人奉書」, 日本史研究会中世史部会 2 月例会, 日本史研究会,

日本史研究会事務所会議室（ハイブリッド）， 2023/2/28

辻尾榮市「水上交通の拠点伏見宿界隈とその成立」，石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,伏見地域（対面）， 2022/4/24

辻尾榮市「東アジアの船棺葬とその起源」，島世界における葬送の人類学・共同研究会,島世界における葬送の人類学・共同研究会,国立民族学博物館第3セミナー室（対面）， 2022/5/8

辻尾榮市「賀古駅家跡と念仏信仰をたずねて」，石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,加古川地域（対面）， 2022/5/22

辻尾榮市「北摂能勢街道に見る名産と産業」，石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,池田地域（対面）， 2022/6/12

辻尾榮市「砲台・灯台・水害の碑から考えてみる」，石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,夙川地域（対面）， 2022/7/10

辻尾榮市「北白川の石仏と吉田神道の成立」，石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,北白川地域（対面）， 2022/8/28

辻尾榮市「余野周辺の在地信仰を探る」，石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,余野川尻地域（対面）， 2022/9/25

辻尾榮市「古代豪族美努連と河内の開発」，石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,河内山本地域（対面）， 2022/10/23

辻尾榮市「一休宗純が歩いた北河内枝切街道」，石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,石仏を記録する部会・地域歴史民俗考古研究所,門真地域（対面）， 2022/11/6

藤井滉良「織田政権の東国取次の変遷」，第61回近世史サマーセミナー,第61回近世史サマーセミナー実行委員会（オンライン）， 2022/9/10

藤井滉良「織田信長の関東進出と関東管領」，日本史研究会中世史・近世史合同部会,日本史研究会,日本史研究会事務所会議室（ハイブリッド）， 2022/12/18

【文学研究科】

〔博士前期〕

エミル・マルテ・アンデルセン「古代日本における亡命百済・高句麗移民とその子孫の同化過程」，第6回若手研究者フォーラム,大阪大学大学院人文学研究科研究推進室,大阪大学文法経本館大会議室（ハイブリッド）， 2022/9/14

エミル・マルテ・アンデルセン「日本における亡命百済・高句麗移民とその子孫の同化過程」，続日本紀研究会11月例会,続日本紀研究会,オンライン（オンライン）， 2022/11/4

エミル・マルテ・アンデルセン「日本における亡命百済・高句麗移民とその子孫の同化過程」，大阪大学・関西大学・京都府立大学・明治大学4大学合同考古学・古代史大学院生研究交流プログラム,大阪大学・関西大学・京都府立大学・明治大学4大学合同考古学・古代史大学院生研究交流プログラム（オンライン）， 2023/1/8

青山耕平「論評：木村英一「六波羅探題の成立と公家政権」・同「鎌倉後期の悪党検断方式に関する覚書」・同「勅命施行にみる鎌倉後期の六波羅探題」」，日本史研究会中世史部会大会共同研究報告業績検討会,日本史研究会（オンライン）， 2022/4/9

栗山恵輔「八・九世紀の班幣と奉幣」，続日本紀研究会11月例会,続日本紀研究会（オンライン）， 2022/11/18

佐藤駿也「石見益田氏の所領支配と所領認識」，大阪歴史学会中世史部会,大阪歴史学会（オンライン）， 2022/11/25

鷲見涼太「黎明期の日本古代文書行政―読申公文の成立と背景―」，海域アジア史研究会,海域アジア史研究会（オンライン）， 2022/7/31

鷲見涼太「日本古代における文書使用の淵源と展開」，続国書の会,続国書の会，（対面）， 2023/2/26

中野美沙「斎忌の役割とその変化―音楽を手がかりとして―」，続日本紀研究会9月例会,続日本紀研究会（オンライン）， 2022/9/30

横井裕人「論評：中本和「初雪見参と大雪見参」」，日本史研究会古代史部会大会共同研究報告業績検討会,日本史研究会（オンライン）， 2022/5/16

横井裕人「文人官僚と陰陽寮―「祟」と貴族社会の変容について―」， 続日本紀研究会 9 月例会, 続日本紀研究会（オンライン）， 2022/9/16

〔博士後期〕

糸川風太「近世幕府海運体制の特質と諸問題―御城米輸送を対象として―」，大阪歴史学会近世史部会 5 月例会（第 2 回大会準備報告）,大阪歴史学会（オンライン）， 2023/5/20

糸川風太「近世幕府海運体制の特質と諸問題―御城米輸送を対象として―」，大阪歴史学会近代史部会 2022 年度大会報告,大阪歴史学会,神戸大学（ハイブリッド）， 2022/6/26

糸川風太「河村瑞賢と紀州藩領南伊勢地域の人々―西廻海運事業を対象として―」，和歌山地方史研究会大会,和歌山地方史研究会,和歌山大学 松下会館 セミナールーム（対面）， 2023/3/19

梶尾良太「太平洋戦争期における日本の陸運転移政策と港湾問題―阪神中継輸送を中心に―」，大阪歴史学会近代史部会 11 月例会,大阪歴史学会（オンライン）， 2022/11/5

菊池康貴「本校における探究教育の取り組み―現在、過去、未来―」，大阪大学高大連携教育団体 SUIT 探究勉強会,大阪大学高大連携教育団体 SUIT 探究勉強会（オンライン）， 2022/4/23

菊池康貴「”悪”とは何か―中世における倫理観―」，関西学院中学部人権教育講演会,関西学院中学部,関西学院大学礼拝堂（対面）， 2022/5/21

菊池康貴「観応擾乱期の南朝政権に関する一考察―西国における親王の動向を題材として―」，大阪歴史学会中世史部会,大阪歴史学会（オンライン）， 2022/9/30

菊池康貴「『演劇って面白そう!』と思ったら最初に読む本 ―『演劇』のもつチカラ、いちから全部教えます!―」，出版甲子園第 18 回決勝大会,出版甲子園実行委員会,新宿ミライナタワー（オンライン）， 2022/11/27

綱澤広貴「近世中後期における武家奉公人の取り立て原理―美作国津山藩を素材として―」，日本史研究会近世史部会,日本史研究会（オンライン）， 2022/4/18

佐藤一希「江戸時代の皇位継承問題と御霊信仰―上御霊神社相殿に祀られた怨霊―」，畿内近国史研究会例会,畿内近国史研究会（オンライン）， 2022/3/20

佐藤一希「巡見案内：江戸時代の天皇葬送の道筋を辿る―京都御所から泉涌寺へ―」，日本史研究会近世史部会現地見学会,日本史研究会,京都府京都市（対面）， 2023/1/8

綱澤広貴「近世中後期における武家奉公人の取り立て原理―美作国津山藩を素材として―」，日本史研究会近世史部会,日本史研究会（オンライン）， 2022/4/18

永野弘明「中世後期の金剛寺寺辺にかんする試論―地方寺院の子院による土地売買と寺領経営―」，第 14 回金剛寺文書研究会,金剛寺文書研究会（オンライン）， 2022/10/16

永野弘明「日本中世前期の在地領主・在地集団・家―シンポジウム「首長墓系譜の再検討」に寄せて―」，古代学研究会 2022 年度拡大例会シンポジウム準備会,古代学研究会（オンライン）， 2022/11/13

永野弘明「中世前期の荘園制と荘官」，大阪歴史学会中世史部会第 1 回大会準備報告会,大阪歴史学会（オンライン）， 2023/1/29

永野弘明「日本中世前期の在地領主・在地集団・家―シンポジウム「首長墓系譜の再検討」を踏まえて―」，古代学研究会 2022 年度 2 月例会,古代学研究会（オンライン）， 2023/2/18

永野弘明「中世前期の荘園制と荘官」，大阪歴史学会中世史部会第 2 回大会準備報告会,大阪歴史学会（オンライン）， 2023/3/19/

永山 愛「南北朝内乱期における攻城戦」，第 38 回全国城郭研究者セミナー,第 38 回全国城郭研究者セミナー実行委員会、中世城郭研究会（オンライン）， 2022/8/28

永山 愛「建武政権期における軍事対応」，歴史学研究会中世史部会 2 月例会,歴史学研究会,東京大学史料編纂所福武ホール大会議室（対面）， 2023/2/11

濱田恭幸「近代移行期における水利秩序と地方行財政―旧加賀藩領を事例に―」，大阪歴史学会近代史部会 2022 年度大会第 2 回準備会,大阪歴史学会（オンライン）， 2022/5/15

濱田恭幸「近代移行期における水利秩序と地方行財政―旧加賀藩領を事例に―」，大阪歴史学会近代史部会 2022 年度大

会第3回準備会,大阪歴史学会（オンライン）, 2022/6/4

濱田恭幸「近代移行期における水利秩序と地方行財政―旧加賀藩領を事例に―」, 大阪歴史学会近代史部会 2022 年度大会報告,大阪歴史学会,神戸大学（ハイブリッド）, 2022/6/26

濱田恭幸「明治中後期における水害復旧と地域社会―富山県を事例に―」, 「災害文化と地域社会形成史」研究会第 17 回例会,「災害文化と地域社会形成史」研究会（オンライン）, 9/24/2022

濱田恭幸「『難治県』解体再考―明治 10 年代における腕力論の行方―」, 岡山地方史研究会 2022 年度 11 月例会,岡山地方史研究会,岡山県生涯学習センター（対面）, 2022/11/19

濱田恭幸「近世後期加賀藩領における川除普請―越中庄川筋を事例に―」, 大阪歴史学会近世史部会,大阪歴史学会（オンライン）, 2023/2/4

平田良行「近世後期代官役所の斡旋と貸付」, 大阪歴史学会近世史部会 3 月例会（第 1 回大会準備報告）,大阪歴史学会（オンライン）, 2023/3/12

望月みわ「日清通商航海条約改訂における開港場問題と在清日本郵便局―南京郵便局をめぐる日清交渉―」, 東アジア近代史学会,東アジア近代史学会,東洋文庫（ハイブリッド）, 2022/11/12

望月みわ「大東汽船会社の創設について―野崎家史料の分析から―」, 野崎家史料研究会,野崎家史料研究会,ノートルダム清心女子大学（対面）, 2022/12/26

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕

大橋咲菜「室町期荘園の支配と損免交渉―東寺領播磨国矢野荘を中心に―」,『第 6 回若手研究者フォーラム 要旨集』, 大阪大学大学院人文学研究科, pp.11-14, 2022/9/5

大橋咲菜「部会ニュース（中世史部会）: 2022 年 8 月中世史部会卒業論文報告会報告「室町期荘園の支配と損免交渉―東寺領播磨国矢野荘を中心に―」『日本史研究』第 724 号, 日本史研究会, pp.54-55, 2022/12/20

大橋咲菜『交野市史研究紀要 第 28 輯 河内国交野郡私部村無量光寺文書（その 2）』, 交野市教育委員会, pp.1-66, 2023/3（※古林小百合氏と分担執筆）

山田雄翔「永禄・元亀年間における足利義昭と近臣」,『第 6 回若手研究者フォーラム 要旨集』, 大阪大学大学院人文学研究科, pp.47-50, 2022/9/5

山田雄翔「部会ニュース（中世史部会）: 2022 年 3 月中世史部会池田拓哉報告討論要旨」『日本史研究』第 723 号, 日本史研究会, pp.65-66, 2022/11/20

山田雄翔「部会ニュース（中世史部会）: 2022 年 8 月中世史部会卒業論文報告会報告「儀礼に見る足利義昭の幕府再興」『日本史研究』第 724 号, 日本史研究会, pp.61-62, 2022/12/20

山田雄翔「部会ニュース（中世史部会）: 2022 年 8 月中世史部会卒業論文報告会・山崎裕太報告討論要旨」『日本史研究』第 724 号, 日本史研究会, pp.60-61, 2022/12/20

〔博士後期〕

北山 航「2022 年度大会中世史部会報告「質疑・討論」」『ヒストリア』第 295 号, 大阪歴史学会, pp.118-119, 2022/12/20

藤井滉良「2022 年度大会近世史部会糸川風太報告「質疑・討論」」『ヒストリア』第 295 号, 大阪歴史学会, pp.143-144, 2022/12/20

【文学研究科】

〔博士前期〕

青山耕平「第 37 回歴史学入門講座参加記」『歴史科学』第 249 号, 大阪歴史科学協議会, pp.16-17, 2022/5

青山耕平「部会ニュース（中世史部会）: 2021 年 8 月中世史部会卒業論文報告会報告「寛喜の飢饉と御家人制の展開について―京都大番役の立法を中心に―」要旨」『日本史研究』第 718 号, 日本史研究会, pp.95-96, 2022/6/20

青山耕平「2021 年 11 月例会「『歴史総合』の議論の現段階―2022 年度の授業実施を見すえて―」討論要旨」『歴史科学』第 252 号, 大阪歴史科学協議会, pp.32-33, 2023/2

- 青山耕平「部会ニュース（中世史部会）：2021 年 8 月中世史部会卒業論文報告会・石川琴音報告討論要旨」『日本史研究』第 718 号，日本史研究会，pp.97-98, 2022/6/20
- 伊藤友弥「部会ニュース（中世史部会）：2021 年 11 月中世史部会卒業論文報告会報告「地方寺院としての和泉国久米田寺と南北朝内乱」要旨」『日本史研究』第 720 号，日本史研究会，pp.76-77, 2022/8/20
- 伊藤友弥「部会ニュース（中世史部会）：2021 年 11 月中世史部会卒業論文報告会・佐藤駿也報告討論要旨」『日本史研究』第 720 号，日本史研究会，p.79, 2022/8/20
- 伊藤友弥「2021 年 7 月例会「中世身分制研究の再構築—戦乱期京都の都市社会から—」討論要旨」『歴史科学』第 251 号，大阪歴史科学協議会，pp.13-14, 2022/11
- 岩城大行「部会ニュース（中世史部会）：2021 年 6 月中世史部会金澤木綿報告討論要旨」『日本史研究』第 716 号，日本史研究会，pp.101-102, 2022/4/20
- エミル・マルテ・アンデルセン「日本における亡命百済・高句麗移民とその子孫の同化過程—8 世紀までの再考—」，『第 6 回若手研究者フォーラム 要旨集』，大阪大学大学院人文学研究科，pp. , 2022/9/5
- エミル・マルテ・アンデルセン「日本における亡命百済・高句麗移民とその子孫の同化過程」，『第 6 回若手研究者フォーラム 要旨集』，大阪大学大学院人文学研究科，pp.7-10, 2022/9/5
- 栗山恵輔「部会ニュース（古代史部会）：2021 年 6 月古代史部会卒業論文報告会報告「六国史にみえる臨時奉幣・奉献」要旨」『日本史研究』第 716 号，日本史研究会，pp.94-95, 2022/4/20
- 栗山恵輔「部会ニュース（古代史部会）：2021 年 6 月古代史部会卒業論文報告会・中納雅司報告討論要旨」『日本史研究』第 716 号，日本史研究会，pp.96-97, 2022/4/20
- 佐藤駿也「部会ニュース（中世史部会）：2021 年 11 月中世史部会卒業論文報告会報告「南北朝・室町期の国人所領安堵—越後国阿賀北国人を中心に—」要旨」『日本史研究』第 720 号，日本史研究会，p.78, 2022/8/20
- 佐藤駿也「部会ニュース（中世史部会）：2021 年 11 月中世史部会卒業論文報告会・伊藤友弥報告討論要旨」『日本史研究』第 720 号，日本史研究会，pp.77-78, 2022/8/20
- 佐藤駿也「部会ニュース（中世史部会）：2022 年 2 月中世史部会永山愛報告討論要旨」『日本史研究』第 722 号，日本史研究会，pp.60-61, 2022/10/20
- 下野航太「部会ニュース（近現代史部会）：2021 年 7 月近現代史部会卒業論文報告会報告「原敬内閣期の政友会の党勢拡張と地域利害—勢江鉄道敷設運動を事例に—」要旨」『日本史研究』第 719 号，日本史研究会，pp.79-80, 2022/7/20
- 下野航太「部会ニュース（近現代史部会）：2021 年 7 月近現代史部会卒業論文報告会・片田亮報告討論要旨」『日本史研究』第 719 号，日本史研究会，p.82, 2022/7/20
- 下野航太「大阪歴史科学協議会委員会記録（2022 年 3 月～5 月）」『歴史科学』第 250 号，大阪歴史科学協議会，pp.94-95, 2022/8 ※鷺見涼太氏・北泊謙太郎氏との共同執筆
- 下野航太「2021 年 9 月例会「近世大坂の地域女性団体研究から地域女性史へ—『女性ネットワークの誕生』に学ぶ—」討論要旨」『歴史科学』第 251 号，大阪歴史科学協議会，pp.29-30, 2022/11
- 鷺見涼太「大阪歴史科学協議会委員会記録（2021 年 12 月、2022 年 1 月・2 月）」『歴史科学』第 249 号，大阪歴史科学協議会，pp.64-65, 2022/5 ※北泊謙太郎氏との共同執筆
- 鷺見涼太「大阪歴史科学協議会委員会記録（2022 年 3 月～5 月）」『歴史科学』第 250 号，大阪歴史科学協議会，pp.94-95, 2022/8 ※下野航太氏・北泊謙太郎氏との共同執筆
- 鷺見涼太「部会ニュース（古代史部会）：2022 年 2 月古代史部会柳沢菜々報告討論要旨」『日本史研究』第 721 号，日本史研究会，pp.65-66, 2022/9/20
- 平尾 悠「部会ニュース（近現代史部会）：2021 年 7 月近現代史部会卒業論文報告会報告「第 11 師団設置による善通寺とその周辺地域の変容」要旨」『日本史研究』第 719 号，日本史研究会，p.78, 2022/7/20
- 平尾 悠「部会ニュース（近現代史部会）：2021 年 7 月近現代史部会卒業論文報告会・下野航太報告討論要旨」『日本史研究』第 719 号，日本史研究会，pp.80-81, 2022/7/20
- 平野裕大「2022 年度大会近代史部会濱田恭幸報告「質疑・討論」」『ヒストリア』第 295 号，大阪歴史学会，pp.196-197, 2022/12/20

- 横井裕人「部会ニュース（古代史部会）：2022 年 1 月古代史部会櫻井智報告討論要旨」『日本史研究』第 720 号，日本史研究会，p.72，2022/8/20
- 渡辺知行「部会ニュース（中世史・近世史合同部会）：2021 年 8 月中世史・近世史合同部会山下耕平報告討論要旨」『日本史研究』第 719 号，日本史研究会，pp.77-78，2022/7/20
- 渡辺知行「部会ニュース（中世史部会）：2022 年 3 月中世史部会報告「院政期村上源氏と撰関家」要旨」『日本史研究』第 722 号，日本史研究会，pp.61-62，2022/10/20
- 〔博士後期〕
- 糸川風太「2021 年度第 2 回例会報告要旨「近世中後期幕府廻船事業の諸問題—廻船御用達史料『苫屋・飯田家文書』の検討から—」『交通史研究』第 100 号，交通史研究会，pp.62-63，2022/4/20
- 糸川風太「2022 年度大会報告要旨（近世・部会報告）「近世幕府海運体制の特質と諸問題—御城米輸送を対象として—」『ヒストリア』第 292 号，大阪歴史学会，pp.68-69，2022/6/10
- 梶尾良太「2022 年度大会近代史部会袁甲幸報告「質疑・討論」『ヒストリア』第 295 号，大阪歴史学会，pp.224-225，2022/12/20
- 佐藤一希「書評：林大樹著『天皇近臣と近世の朝廷』」『歴史評論』第 867 号，歴史科学協議会，pp.98-102，2022/7
- 佐藤一希「部会ニュース（近世史部会）：2021 年 12 月近世史部会報告「近世天皇家の宮中法会と寺院・門跡」要旨」『日本史研究』第 721 号，日本史研究会，pp.70-71，2022/9/20
- 佐藤一希「〈史料翻刻〉『院号定部類記』「高松院」「承明門院」，研究代表者野口華世編『「院号定部類記」に関する研究—「院号定部類記」の共同利用に向けての調査・研究・公開』（東京大学史料編纂所研究成果報告 2021-17）』，東京大学史料編纂所，pp.25-29，pp.39-41，2022/3
- 高岡 萌「福井県立こども歴史文化館所蔵の蓄音機に関する調査」『技術史教育学会誌』第 23 巻第 2 号，日本技術史教育学会，pp.3-8，2022/4 ※秋山肇氏・中原義史氏との共著
- 網澤広貴「部会ニュース（近世史部会）：2022 年 4 月近世史部会報告「近世中後期における武家奉公人の取り立て原理—美作国津山藩を素材として—」『日本史研究』第 724 号，日本史研究会，pp.62-63，2022/12/20
- 網澤広貴「史料紹介：伴善右衛門筆「奉謹上」の紹介」『地域研究いたみ』第 52 号，伊丹市文化振興課，pp.84-91，2023/3
- 永山 愛「部会ニュース（中世史部会）：2022 年 2 月中世史部会報告「建武政権期における没官について」要旨」『日本史研究』第 722 号，日本史研究会，pp.59-60，2022/10/20
- 濱田恭幸「2022 年度大会報告要旨（近代・部会報告）「近代移行期における水利秩序と地方行財政—旧加賀藩領を事例に—」『ヒストリア』第 292 号，大阪歴史学会，pp.71-72，2022/6/10
- 濱田恭幸「部会ニュース（近現代史部会）：2021 年 8 月近現代史部会大月功雄報告討論要旨」『日本史研究』第 719 号，日本史研究会，pp.83-84，2022/7/20
- 濱田恭幸「書評：奥田晴樹著『明治維新と府県制度の成立』」『日本史研究』第 720 号，日本史研究会，pp.44-51，2022/8/20
- 濱田恭幸「大坂画壇における橋本香坡と伊丹小西家」，伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課編『小西酒造萬歳蔵史料—近世伊丹の学び舎—明倫堂・橋本香坡書簡集（伊丹市史料集 14）』，伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課，pp.153-158，2023/3/31
- 望月みわ「2021 年度第 2 回例会報告要旨「日清・日露戦争期の軍事郵便制度とその実態—通信官吏の動向を中心に—」『交通史研究』第 100 号，交通史研究会，pp.63-64，2022/4/20
- 望月みわ「部会ニュース（近現代史部会）：2021 年 7 月近現代史部会立花孝裕報告討論要旨」『日本史研究』第 717 号，日本史研究会，pp.89-90，2022/5/20
- 望月みわ「部会ニュース（近現代史部会）：2021 年 12 月近現代史部会出水清之助報告討論要旨」『日本史研究』第 721 号，日本史研究会，pp.73-74，2022/9/20
- 望月みわ「2022 年 7 月例会「2022 年、ロシア＝ウクライナ戦争をどう捉えるか」彙報」『歴史科学』第 252 号，大阪歴史科学協議会，pp.54-56，2023/2

1-6-4. 受賞（受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

- ・菊池康貴：公益財団法人日本教育公務員弘済会大阪支部 令和 4 年度教育実践研究論文入選 「総合学習における表現力向上の取り組み—演劇教育実践 2 年目を終えて—」, 2022 年度
- ・菊池康貴：大阪学校劇作研究同人会 令和 4 年度戯曲賞（戯曲「わになって」）, 関西学院千里国際中等部演劇部, 2022 年度
- ・エミル・マルテ・アンデルセン：大阪大学大学院人文学研究科第 6 回若手研究者フォーラム優秀賞, 2022/9/14
- ・横井裕人：文学研究科賞, 2022 年度

1-6-5. 研究助成 （受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

- ・菊池康貴「千里国際×八尾市 空き家再生プロジェクト—SDGs の観点から地域創生の可能性を探る—」, 公益財団法人日本教育公務員弘済会大阪支部奨励金, 10 万円
- ・菊池康貴「演劇を通じた奉仕教育—“Mastery for Service” の実現に向けて—」, 一般社団法人キリスト教学校教育同盟 2022 年度キリスト教学校教育振興助成, 27 万円

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	1	0	1
計	1	0	1

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】

なし

【文学研究科】

【課程博士】

尾崎真理「江戸幕府幕領配置の研究」2023/3

主査：野村 玄 副査：飯塚一幸、伴瀬明美

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 （就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
1	4	0	2	0	7	5	1	13

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
1	0	1	1	0	3	0	3

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】

なし

【文学研究科】

増成一倫 博士後期課程 大谷大学 助教 2022/4

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 6 名

【人文学研究科】: 0 名

【文学研究科】: 6 名

＜内訳＞ 技術職 1 名 (豊中市立郷土資料館 [学芸員]) ジャーナリスト 1 名 (四国新聞社)
中・高等学校の教員 3 名 (愛光中学校・高等学校、三田学園中学校・高等学校、広島市立城山中学校)
その他 1 名 (出版業 [第一学習社])

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

- (1)→日本史学専門分野の構成員は、それぞれの分野で各自の研究を進めるかわら、学界の共有財産の蓄積や基礎的研究の充実のための諸活動に、積極的に参画した。また、多くが高校日本史の教科書を執筆し、歴史教育にも寄与した。さらに、本専門分野が所蔵または借用している旧摂津国住吉郡平野郷町含翠堂(土橋家)文書、旧河内国古市郡駒ヶ谷村西應寺文書の整理・研究をおこなった。加えて、泉大津市に寄託されている横山家文書を借用し、大学院演習において整理・研究をおこなった。
- (2)→学会活動については、日本史研究会、大阪歴史学会、歴史科学協議会、大阪歴史科学協議会、史学研究会、史学会、続日本紀研究会、条里制・古代都市研究会などの学会・研究会の委員等を担うなど、学会運営に積極的に関わり、日本史学界の研究の推進に大きく寄与している。また、上記のうち、大阪歴史科学協議会・続日本紀研究会の事務局を本専門分野で引き受けている。
- (3)→つぎに国内での学際的な共同研究は、以下のとおりである。飯塚一幸教授は、大阪大学歴史教育研究会(共同代表 秋田茂・堤一昭・飯塚一幸)、「戦前期大阪における花街の総合的研究: 芸能を媒介とする社会関係の形成を視点として」(科研、金沢大学、代表笠井純一)、「巨大塩田地主野崎家史料の総合的研究」(科研、大阪大学、代表飯塚一幸)に参加した。川合康教授は、「戦国軍記・合戦図の史料学的研究」(科研、共立女子大学、代表堀新)、「「女人高野」日本遺産の調査研究」(神戸女学院大学、代表栗山圭子)に参加した。市大樹教授は、「日本古代の都市造営をめぐる土木技術史研究」(科研、三重大学、代表小澤毅)、「双方向ネットワーク環境を活用したオンラインによる日本墨書土器データベースの構築」(科研、明治大学、代表吉村武彦)、「古代隠岐の形成と特質」(島根県古代文化センター)に参加した。伴瀬明美准教授は、「東アジア諸地域における王室儀礼比較史のための国際的研究基盤の構築」(科研、大阪大学、代表伴瀬明美)、「データ繋留型編纂支援・資源化システム構築と歴史情報データベースの次世代展開」(科研、東京大学、代表山口英男)、「統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出」(科研、東京大学、代表山田太造)に参加した。野村玄准教授は、「比較のなかの「東アジア」の「近世」—新しい世界史の認識と構想のために—」(国際日本文化研究センター)に参加した。
- (4)→文化遺産保存問題や博物館問題など、歴史学が直面する諸問題に、誠実に取り組んだ。また、講演活動や NHK・BS プレ

ミアム・BS4K「徳川 JAPAN サミット 2023」への出演などを通じて、研究成果を社会に還元する活動に精力的に取り組んだ。このほか、河内長野市に所在する天野山金剛寺の中世文書群を調査・撮影して、河内長野市立図書館で公開する事業を進め、河内長野市の「日本遺産」関連事業にも協力した。大阪府公文書館懇談会委員、吹田市立博物館協議会委員、『続日本紀』を読む会のボランティア講師、史跡古市古墳群整備検討委員会委員、二子塚古墳保存整備検討委員会委員などを務めた。

(5)→『摂津市史』『茨木市史』『枚方市史』『八尾市史』『福岡市史』などの自治体史編纂事業に協力し、地域社会に新しい歴史像を提示しつつある。

2—2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

「続日本紀研究会」(学会、事務局引き受け) 2019 年 4 月～2022 年 6 月
「大阪歴史学会」(学会、事務局引き受け) 2022 年 6 月～現在に至る
「大阪歴史科学協議会」(学会、事務局引き受け) 2014 年 6 月～2022 年 7 月
「大阪歴史科学協議会」(学会、編集事務局引き受け) 2022 年 7 月～現在に至る

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

研究室例会 (1998 年度～)

・2022 年度

大谷 正氏 (専修大学名誉教授)「漢詩文を近代史研究の資料として使う試み—軍医渡辺重綱と『漫遊詩草』・『琉球漫録』の世界—」2023 年 1 月 26 日 (於: 文法経研究講義棟 法 42 番講義室)

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

2022 年度 『史友会会報』第 37 号 (待兼山史友会編、同、2023 年 1 月)

2—3. 教員の研究活動

飯塚 一幸 教授

1958 年生。1988 年、京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。文学博士 (大阪大学、2018 年)。舞鶴工業高等専門学校専任講師、佐賀大学助教授、大阪大学文学研究科准教授を経て、2010 年 1 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻: 日本近代史

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

大国正美, 飯塚一幸, 新宮由真, 他(共著)『伊丹市史料集 14 小西酒造萬歳蔵史料 近世伊丹の学び舎—明倫堂・橋本香坡書簡集—』伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課, pp. 127-129, 2023/3/31

村田路人, 中川すがね, 飯塚一幸, 他(共著)『新修摂津市史第二巻近世・近代』摂津市, pp. 474-526, 558-598, 637-647, 664-692, 701-726, 800-814, 841-853, 2023/3/31

山口輝臣, 福家崇洋, 飯塚一幸, 他(共著)『思想史講義【明治篇Ⅱ】』筑摩書房, pp. 75-90, 2023/2/10

平雅行, 横田冬彦, 飯塚一幸, 他(共著)『日本史探究』実教出版社, pp. 221-279, 2023/1/25

山田洋, 水本邦彦, 飯塚一幸 他(共著)『京丹後市久美浜町太刀宮文書(久美浜代官所郡中代等文書)・佐治家資料調査と御用留横断研究』京都府立大学文学部歴史学科, pp. 24-28, 2022/11/30

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

飯塚一幸(書評), 「三村昌司著『日本近代社会形成史 議場・政党・名望家』」『日本歴史』第 888 号, 東京大学出版会, pp.101-103, 査読有, 2022/5

4. 口頭発表

飯塚一幸 「原敬と大阪」, NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ「総合文化を学ぶ科」, NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ, 豊中市立文化芸術センター(対面), 2022/9/6

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(B) 一般、代表者: 飯塚一幸

課題番号: 19H01309

研究題目: 巨大塩田地主野崎家史料の総合的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本史研究会・代表委員, 2022 年 10 月～現在に至る

高知県史編さん近代部会・委員, 2022 年 4 月～現在に至る

吹田市立博物館協議会・委員, 2021 年 11 月～現在に至る

公益財団法人竜王会館・理事, 2020 年 6 月～現在に至る

大阪府公文書館懇談会・委員, 2019 年 4 月～現在に至る

史学研究会・評議員, 2013 年 6 月～現在に至る

八尾市史編集委員会・編集委員, 2011 年 4 月～現在に至る

摂津市史編さん委員会・編さん委員, 2011 年 4 月～現在に至る

枚方市史編集委員会・編集委員, 2011 年 4 月～現在に至る

川合 康 教授

1958 年生。1987 年、神戸大学大学院文化科学研究科博士課程単位修得退学。文学博士（神戸大学、1994 年）。樟蔭女子短期大学助教授、東京都立大学准教授、日本大学教授を経て、2012 年 4 月大阪大学大学院文学研究科教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本中世史

1. 論文

川合康「二通の源貞弘施入置文と源某神田講田奉免状について―河内国金剛寺の寺辺領形成と内乱情勢―」『河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会史の研究 (JSPS 科研費 19K00952) 研究成果報告書』, pp.5-14, 査読無, 2023/3/31

川合康「『女人高野』金剛寺の成立と河内長野」『日本遺産「女人高野」調査研究報告書』, pp.33-44, 査読無, 2023/3/31

川合康「八条院祈願所金剛寺の成立と春秋二季伝法会の始行」『鎌倉遺文研究』第 50 号, pp.2-26, 査読無, 2022/10/20

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

川合康「生田の森・一の谷の戦い 解説 3 方面で行われた源氏と平氏の明暗を分けた戦い」『再現イラストでよみがえる 日本史の現場』朝日新聞出版, pp.74-77, 2022/5

4. 口頭発表

川合康「『女人高野』金剛寺の成立と河内長野」, 女人高野に関する研究報告会, 女人高野日本遺産協議会, 九度山町ふるさとセンター (対面), 2022/9/25

川合康「書評 中根千絵・薄田大輔編『合戦図―描かれた＜武＞』（勉誠出版、2021 年）」, 第22回「戦国軍記・合戦図の史料学的研究」研究会, 「戦国軍記・合戦図の史料学的研究」研究会, (オンライン), 2022/7/24

川合康「八条院祈願所金剛寺の成立と春秋二季伝法会の始行」, 第11回金剛寺文書研究会, 金剛寺文書研究会, (オンライン), 2022/6/19

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:川合康

課題番号:19K00952

研究題目:河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会史の研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

市 大樹 教授

1971 年生まれ。2000 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。文学博士（大阪大学、2001 年）。奈良文化財研究所研究員、同主任研究員、2009 年 4 月大阪大学文学研究科准教授、2020 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。日本学術振興会賞（2012 年）、日本学士院学術奨励賞（2012 年）、濱田青陵賞（2013 年）、古代歴史文化賞大賞（2014 年）。専攻：日本古代史

1. 論文

市大樹「宮都の墨書土器」, 吉村武彦他編『墨書土器と文字瓦』, 八木書店, pp. 87-107, 2023/1

市大樹「畿内の駅家と駅路」, 吉村武彦他編『シリーズ地域の古代史 畿内と近国』, KADOKAWA, pp. 133-172, 2023/1

市大樹「古代王宮の護り」, 吉川真司他編『講座畿内の古代学Ⅳ 軍事と対外交渉』, 雄山閣, pp. 38-59, 2022/9

市大樹「孝徳天皇一大化改新を推進した天皇」, 新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史 1 古墳・飛鳥時代編』吉川弘文館, pp. 157-167, 2022/8

市大樹「国府の成立」, 『季刊考古学』別冊 37, 雄山閣, pp. 20-25, 2022/6

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

市大樹(書評)「辻正博編著『中国前近代の関津と交通路』, 『史林』, 105-6, pp. 83-89, 2022/11

市大樹(書評)「中村太一著『日本古代の都城と交通』, 『日本史研究』, 716, pp. 76-83, 2022/4

4. 口頭発表

市大樹「古代三島と淀川水系」, 新修摂津市史第一巻刊行記念講演会, 摂津市, 摂津市立コミュニティプラザ, 2022/12

市大樹「難波宮から探る大化改新」, 三輪山セミナー, 三輪山神社, 三輪山会館, 2022/11

市大樹「日唐交通比較研究の諸問題」, シンポジウム「隋唐時代における交通・交易」, 唐代史研究会, オンライン, 2022/8

市大樹「出雲国計会帳から探る奈良時代の交通」, 島根県立古代出雲博物館講演会, 島根県立古代出雲博物館, 島根県立博物館講堂, 2022/4

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2017 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:市大樹

課題番号:17K03065

研究題目:日本古代木簡の源流と特質

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

福岡市史古代史部会・専門委員, 2006 年 4 月～現在に至る

新修摂津市史編さん委員会・編集委員, 2011 年 7 月～現在に至る

太子町国史跡二子塚古墳整備検討委員会・委員, 2016 年 4 月～現在に至る

史跡古市古墳群整備検討委員会・委員, 2016 年 4 月～現在に至る

大阪市文化財保護審議会・委員, 2019 年 4 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

大阪歴史学会事務局長, 2022 年 6 月～現在に至る

続日本紀研究会・編集委員, 2006 年 6 月～2019 年 2 月, 2022 年 6 月～現在に至る

条里制・古代都市研究会・集会委員, 2006 年 4 月～現在に至る

古代文化刊行委員会・編集参与, 2010 年 4 月～現在に至る

続日本紀研究会・代表・事務局長, 2019 年 3 月～2022 年 6 月

木簡学会・委員, 2019 年 4 月～現在に至る

伴瀬 明美 准教授

1967 年生。1997 年 3 月、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。大阪大学博士（文学）。東京大学史料編纂所助教、同准教授を経て、2021 年 4 月大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：日本中世史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

伴瀬明美(分担執筆)『論点・日本史学』ミネルヴァ書房, pp. 144-145, 2022/8

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

伴瀬明美 『『大金集礼』巻五、皇統元年冊皇后 訳註』, 第 58 回東アジア后位比較史研究会, 東アジア后位比較史研究会, (オンライン), 2023/2/18

伴瀬明美 「嘉禎元年四条天皇大嘗会における准母の役割をめぐって」, 第 79 回女院研究会, 女院研究会, (オンライン), 2022/11/28

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2026 年度、基盤研究(B) 一般、代表者:伴瀬明美

課題番号:22H00686

研究題目:東アジア諸地域における王室儀礼比較史のための国際的研究基盤の構築

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2022 年度～2024 年度、研究助成名称:公益財団法人三菱財団 人文科学研究助成、助成金獲得者:代表者伴瀬明美

研究題目: 東北アジア非漢族諸王室儀礼における礼的〈逸脱〉の基礎的研究

助成団体名:公益財団法人三菱財団

助成金額:244 万円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

文化庁文化審議会文化財分科会第一専門調査会・専門委員, 2022 年 4 月～現在に至る

野村 玄 准教授

1976 年生まれ。2004 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）（大阪大学）。大阪青山短期大学専任講師、防衛大学校講師、同准教授、大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科現職。専攻：日本近世史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

野村玄 他(摂津市史編さん委員会)「第一章 近世的秩序の形成(第一節 本能寺の変後の摂津市域周辺 第二節 近世初期の摂津市域と織田長益 第三節 十七世紀の所領構成と諸領主)」『新修摂津市史 第 2 巻 近世 近代』摂津市, pp. 4-41, 2023/3

野村玄(インタビュー),「「等身大の天下人」追求「どうする家康」大河の分け目に」『中日新聞』, 2023/1/14

野村玄(出演),「徳川 JAPAN サミット 2023」テレビ(NHK・BS プレミアム・BS4K),徳川 JAPAN サミット, 2023/1/1

4. 口頭発表

野村玄「徳川家康の神格化の歴史的前提」, 2022 年度キリシタン文化研究会大会,キリシタン文化研究会, 上智大学四谷キャンパス中央図書館・総合研究棟 8 階 821 会議室(対面), 2022/12/4

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2020 年度～2022 年度、6：研究助成、助成金獲得者:野村玄

助成金名:2020 年(令和 2 年)度学術研究助成金

研究題目:天明期から寛政期における新嘗祭・大嘗祭に関する研究

助成団体名:一般財団法人伊藤忠兵衛基金

助成金額:直接経費 500,000 円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

摂津市・市史執筆委員, 2019 年 6 月～現在に至る

北泊 謙太郎 助教

1971 年生。1995 年、大阪大学文学部史学科国史学専攻卒業、1997 年、大阪大学大学院文学研究科博士前期課程(史学専攻、日本史学専門分野)修了、2001 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程(文化形態論専攻、日本史学専門分野)単位修得退学。修士(文学、大阪大学)。大阪大学大学院文学研究科ティーチング・アシスタント(1997 年 6 月～1998 年 2 月)。2001 年大阪大学文学研究科助教。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻：日本史学／日本近現代史

1. 論文

北泊謙太郎「官僚組織としての日本海軍—組織的利害(セクショナル・インタレスト)・同調圧力・無責任」日本平和学会(編)『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』法律文化社, pp. 66-71, 2020/10

2. 著書(単著・編著)

北泊謙太郎『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』日本平和学会編, 法律文化社, pp. 66-71, 2020/10

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

北泊謙太郎 「戦争正当化の「論理」と実態—ロシア＝ウクライナ戦争から 9 か月を経て—」第 24 回総合学術研究集会 in 大阪：分科会 A4「ロシアのウクライナ軍事侵攻—2022 年」，日本科学者会議，国際公共政策研究科 2F 講義シアター(ハイブリッド) 2022/11/25

北泊謙太郎 「戦争正当化の「論理」と実態—現代ロシアと近代日本を往還して—」平和のための集中講義，全学共通教育科目「平和の問題を考える」，国際公共政策研究科 2F 講義シアター(ハイブリッド)，2022/5/2

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

水木コレクション調査, 柳沢文庫: 日本史学研究室の近世古文書調査として実施しているもので、柳沢文庫所蔵の「水木コレクション(古文書・和装本ほか)」の整理・保全活動に関わった(2022/10/22～23)

野崎家史料調査,野崎家塩業資料館: 飯塚一幸先生の科研費関連事業として実施しているもので、旧備前国児島郡味野村野崎家文書の整理・保全活動に関わった(2022/4/29～5/1、8/5～8/7、2023/2/22～24)。

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

歴史科学協議会・理事, 2022 年 12 月～現在に至る

日本科学者会議・編集委員, 2022 年 7 月～現在に至る

大阪歴史科学協議会・編集委員長, 2022 年 6 月～現在に至る

大阪歴史科学協議会・庶務委員長, 2014 年 6 月～2022 年 6 月

歴史科学協議会・全国委員, 2012 年 6 月～2022 年 12 月

考 古 学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

大学院においては、講義や通例の演習に加えて、①授業としての修士・博士論文作成演習に加え、投稿論文作成のための個別指導を強化すること、②研究室のプロジェクトにかかわる共同研究への参加を通じて、資料分析の方法を実践的に習得させること、③専門機関の採用情報の入手につとめ、専門職への就職を支援すること、などを目標としている。

2022 年度には新たな対象地域でのフィールド調査を開始し、兵庫県三木市の愛宕山古墳において発掘調査などを行った。コロナウイルスなどの感染拡大により、この2、3年は思うようなフィールド活動ができていなかったが、感染症に十二分に留意しながらも調査を実施することができ、その中で実践的な教育を推進した。また、学内での授業を補うために、上記の調査以外にも例年臨地研修も実施し、奈良文化財研究所や平城宮跡、豊中市立郷土資料館等の見学を行った。このような臨地研修も昨年度までは感染症の蔓延により実施していなかったが、実際の遺跡や研究施設、展示施設などの見学も含めて、文化財の調査や社会貢献活動の実際を学ぶ機会ができた。また、演習や講義での基礎的な学力向上を図るとともに、授業以外にも個別の論文指導を行っており、論文や報告書類の執筆といった成果が得られた。さらにそのほかにもプロジェクトにかかわる共同研究の中で実践的な専門技術の教育なども行っている。就職支援については、随時情報を提供するとともに実際の試験に向けての事前指導を行っているが、大学院修了生が文化財行政や埋蔵文化財調査にかかわる職員などとして就職することもできた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 2 名 准教授 0 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：福永 伸哉、高橋 照彦

助 教：上田 直弥

1-2-2 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		0	0	0	1	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	1	0	0
社会人学生		0	0	0	0	1	0

* うち留学生 1 名、社会人学生 1 名

【文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		2	1	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	1	0	0	0	0
社会人学生		0	0	0	0	0	0

*うち留学生 1 名、社会人学生 0 名

1-2-3 修了生（2022 年度）

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	2	0	1

1—3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022 年度）

【人文学研究科】 0 名

【文学研究科】 0 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

なし

計 0 名

1—4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

三木市史にかかわる調査・三木市史編さん室・三木市教育委員会, 2022/4/1～3/31

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

2022 年度愛宕山古墳発掘調査説明会・大阪大学考古学研究室・2023/3/18

1—5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】なし

【学術振興会特別研究員】注) 3 年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】DC1:0 名 DC2:0 名 PD:1 名 RPD:0 名 (計 1 名)

【文学研究科】DC1:0 名 DC2:0 名 PD:0 名 RPD:0 名 (計 0 名)

1—6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	4(2)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	6(2)
文学研究科	1(1)	3(0)	5(0)	0(0)	0(0)	9(1)
計	5(3)	3(0)	5(0)	0(0)	2(0)	15(3)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	2	1	0	0	3
文学研究科	0	1	2	0	0	3
計	0	3	3	0	0	6

1-6-3. 業績

(1)論文（査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

〔その他〕

館内魁生「考古資料の形態分析における2次元実測図の有効性」『情報考古学』第28号, pp.12-27, 査読有, 2023/3

谷津愛奈、館内魁生「定量的指標を用いた形態分類の試み—緑釉陶器高台形状を事例に—」『日本情報考古学会『講演論文集』』第26号, pp.45-50, 査読無, 2023/3/31

館内魁生「須恵器杯への新技術の導入とその背景—平安時代の東北地方における製作者間の交流—」『考古学研究』第69巻第3号, pp.79-101, 査読有, 2022/12/25

館内魁生、工藤雄一郎、藤原妃敏、會田容弘「福島県笹山原遺跡 No.16 第21次発掘調査」『第36回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』, pp.49-58, 査読無, 2022/12/17

館内魁生「京都系土師器をめぐる「動き」「感覚」の復元」『考古学ジャーナル』第775号, pp.33-37, 査読無, 2022/11/30

館内魁生「多賀城の古代末期の土器様相—基準資料 SK078 出土土器の再検討—」『宮城考古学』第24号, pp.265-274, 査読無, 2022/5/1

【文学研究科】

〔博士前期〕

蓮井寛子「宝塚市八州嶺古墳調査概報・前方部の調査」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.120-122, 査読無, 2022/9/30

蓮井寛子「周溝墓出土土器からみた葬送儀礼の地域性—弥生時代中期の大阪湾沿岸地域を中心に—」『待兼山論叢』第56号, pp.57-81, 査読有, 2022/12/26

蓮井寛子「弥生時代中期の大規模集落における墓群構造の検討—中河内地域を中心として—」『2022年度 大阪大学・関西大学・京都府立大学・明治大学4大学合同考古学・古代史大学院生研究交流プログラム 成果報告書』, pp.11-18, 査

読無, 2023/3/31

西浦熙・蓮井寛子「宝塚市万籟山古墳第3次調査概報・周辺の歴史的環境」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.72-75, 査読無, 2022/9/30

西浦熙・蓮井寛子「宝塚市八州嶺古墳調査概報・周辺の歴史的環境」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.108-111, 査読無, 2022/9/30

我妻佑哉「宝塚市八州嶺古墳調査概報・後円部の調査」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.118-120, 査読無, 2022/9/30

我妻佑哉「6世紀前葉における須恵器長脚無蓋高坏の諸類型と地域差」『2022 年度 大阪大学・関西大学・京都府立大学・明治大学4大学合同考古学・古代史大学院生研究交流プログラム 成果報告書』, pp.26-33, 査読無, 2023/3/31

小堀僚・我妻佑哉「本町遺跡第 45 次調査 現地説明会資料」『掲載誌』, pp.1-4, 査読無, 2023/2/12

蓮井寛子・我妻佑哉(編)「豊中市石塚古墳推定地の測量調査」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.135-144, 査読無, 2022/9/30

〔博士後期〕なし

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

〔その他〕

館内魁生「木を見て森も見ろ—歴史時代の考古学における数量的アプローチの実践例—」, 若手からみた考古学, 出ユーラシアの統合的人類史学 A02 班・C01 班・南山大学考古人類学セミナー「形ノ理:モノが語る物語」, オンライン, 2022/8/7

館内魁生「考古学からみた古代末期の陸奥国府」, 2022 年度東北史学会大会 考古学部会, 東北史学会, 岩手大学(ハイブリッド), 2022/10/2

椿野智之、館内魁生「平安時代初期の東北地方における窯業生産と流通—宮城県村田町三本櫓窯跡の資料をもとに—」, 2022 年度東北史学会大会 考古学部会, 東北史学会, 岩手大学(ハイブリッド), 2022/10/2

【文学研究科】

〔博士前期〕

蓮井寛子「弥生時代中期の大規模集落における墓群構造の検討—中河内地域を中心として—」, 2022 年度 大阪大学・関西大学・京都府立大学・明治大学4大学合同考古学・古代史大学院生研究交流プログラム, 明治大学大学院文学研究科, オンライン, 2023/1/8

我妻佑哉「古墳時代後期の須恵器編年再考—摂津・桜井谷窯跡群を主な対象に—」, 大阪歴史学会考古部会9月例会, 大阪歴史学会, オンライン(オンライン), 2022/9/30

我妻佑哉「6世紀前葉における須恵器長脚無蓋高坏の諸類型と地域差」, 2022 年度 大阪大学・関西大学・京都府立大学・明治大学4大学合同考古学・古代史大学院生研究交流プログラム, 明治大学大学院文学研究科, オンライン, 2023/1/8

〔博士後期〕なし

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

丹羽崇史(著)・唐麗薇(訳)「从“对照实验”看商周青铜器铸造技术」『文化遗产科技认知研究(2021 年度)』, pp.21-30, 査読無, 2022/9/30

高橋照彦(著)・唐麗薇(訳)「日本奈良・平安時代的施釉陶器生産」『国際学術シンポジウム「東アジア都市文明の考古学研究」資料集』, pp.249-257, 査読無, 2023/1/29

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

館内 魁生、日本古代中世移行期における地域間交流の考古学的研究、科学研究費助成事業(特別研究員奨励費)、2022～2024 年度

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	1	0	1
計	1	0	1

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】

唐 麗薇 唐代兩京地方出土塔式罐の研究、主査:高橋 照彦、副査:福永 伸哉・藤岡 穰

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
1	0	0	0	0	1	1	0	2

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	1	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】

【文学研究科】

木村 理 岡山大学・文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門・助教、2022/4

ライアン・ジョセフ・リチャード 岡山大学・文明動態学研究所・准教授（特任）、2023/1

蓮井寛子 奈良県立橿原考古学研究所・技師、2022/4

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】：0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】：0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

専門分野全体としては、海外での調査・研究を行いつつも、広い視野で日本考古学の研究を行ってきており、教員・大学院生ともに、論文や報告書の執筆に取り組んだ。院生の投稿論文については、博士課程の在籍者では論文への投稿や掲載、学会発表などを 1 人 1 回程度は行っているため、概ね成果を挙げることができた。また、フィールドにかかわる研究として兵庫県三木市の愛宕山古墳に関して発掘調査を実施し、新たな成果を上げることができた。さらには、上記の発掘による出土品だけでなく三木市内出土の各種資料についても整理・研究作業につとめて調査成果を得た。この他にも、教員はそれぞれに科学研究費の助成を受けて、種々の研究を推進した。

なお、このほかにも阪大埋蔵文化財調査室の発掘調査や整理の業務にも引き続きの協力を行ないつつ、大学構内の遺跡に関する研究も進めた。その一方で、国の重要文化財指定を受けた野中古墳出土品についても、山梨県立考古博物館などへの貸し出しに対応するとともに、研究調査活動についても継続した。他にも各機関あるいは研究者からの阪大考古学研究室所蔵資料の閲覧や写真提供にも積極的に応じて、研究活動の進展を図っている。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

2022 年度研究室研究会(水曜5限) 於: 文法経済本館4階 464 講義室

2022/5/11「整理作業の進め方について」(M2 蓮井寛子)

2022/5/25「研究室による近年の発掘調査・整理の成果」(B4 近藤葵)

2022/6/22「清水邦彦 2021「近畿地域における弥生時代青銅器生産の技術系譜」について」(B4 吉田拓満)

2022/6/29「発掘調査×3次元」(PD 館内魁生)

2022/7/6「田中由理 2010「馬匹生産地とその性格」について」(B4 石束礼)

2022/7/20「横穴式石室を含む多葬の前方後円墳の検討」(B4 井上陽波)

2022/10/26「篠窯跡群・騎馬ヶ谷9号近傍窯採集資料にかんする整理の成果」(M2 我妻佑哉)

2022/11/9「播磨地域の古墳動態」(B4 今井奈津・B4 金澤すみれ)
2022/12/7「手焙形土器の基礎的検討」(科目等履修生 小貫充)
2022/12/21「野々池7号墳の整理成果」(B4 西川輝政・B4 藤井真央)
2023/1/11「唐代長安の塔式罐の変遷とその地域性」(D3 唐麗薇)
2023/1/25「2022 年度の整理作業成果について」(M2 蓮井寛子)

愛宕山古墳事前勉強会 於:文法経講義棟4階 文 41、2023/2/24

「播磨における古墳動態と首長系譜」(B4 今井奈津)
「古墳時代の首長系譜」(B4 金澤すみれ)
「墳丘及び外表施設の概説と加古川下流東岸の古墳」(B4 藤井真央)
「東播磨における埴輪の様相」(B4 西川輝政)

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

三木市史にかかわる調査・三木市史編さん室・三木市教育委員会, 2022/4/1～3/31

2-2-4. 刊行物

福永伸哉・上田直弥(編)『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, 令和元～4年度科学研究費補助金基盤研究(B)(一般)研究成果報告書, 大阪大学大学院人文学研究科, 2022/9/30
令和2年度学部学生自主研究グループ『令和2年度 学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書「世界遺産登録およびコロナ禍がもたらす“古墳ブーム”の変化と文化財活用の将来像」』, 大阪大学大学院文学研究科考古学研究室, 2022/11/30
大阪大学考古学研究室『2022 年度愛宕山古墳発掘調査説明会資料』, 2023/3/18
大阪大学考古学研究室『2022 年度 愛宕山古墳発掘調査の成果パンフレット』, 2023/3/31

2—3. 教員の研究活動

福永 伸哉 教授

1959 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学博士（大阪大学、2005 年）。大阪大学埋蔵文化財調査室助手、大阪大学文学部助教授、大阪大学大学院文学研究科助教授、2005 年より同教授。2022 年 4 月より大学院人文学研究科 現職。専攻：日本考古学，比較考古学

1. 論文

福永伸哉「ヤマト政権成立期における畿内地域の円丘墓と方丘墓」『纏向学の最前線』, pp.357-366, 査読無, 2022/7/22
福永伸哉「ヤマト政権成立過程における畿内の地域間関係」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』, pp.41-60, 査読無, 2022/9/30
福永伸哉「고대 일본의 상장의례와 전방후원분 (古代日本の喪葬儀礼と前方後円墳)」『고대 동아시아의 상장의례』, pp.65-115, 査読無, 2022/10/27
福永伸哉「近畿と東北」『国家形成期におけるヤマト政権と地域権力の相互関係の再定義—東北地方を中心に—』, pp.55-64, 査読無, 2023/3/12
福永伸哉「長尾山丘陵における前方後円墳の調査」『わがまちの景観を織りなす歴史』, pp.13-18, 査読無, 2023/3/17

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

福永伸哉「小さな古墳残す工夫を」, 日本海新聞, 2022/8/12

4. 口頭発表

福永伸哉「古代日本の喪葬儀礼と前方後円墳」, 国立公州博物館国際学術大会, 国立公州博物館, 国立公州博物館(対面), 2022/10/27

福永伸哉「文化財保護に未来はあるか(シンポジウムコーディネーター)」, 日本学術会議公開シンポジウム, 日本学術会議文化財の保護と活用に関する分科会・岡山大学文明動態学研究所, オンライン, 2022/12/11

福永伸哉「近畿と東北」, 福島大学考古学研究室第4回公開シンポジウム, 福島大学行政政策学類考古学研究室, 郡山市市民交流プラザ(対面), 2023/3/12

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2024 年度、基盤研究(B) 一般、代表者: 福永伸哉

課題番号: 22H00714

研究題目: 初期ヤマト政権の地域統合原理の解明と比較考古学的手法によるその人類史的評価

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

三木市史にかかわる調査: 三木市教育委員会, 2022/4/1～

三木市愛宕山古墳発掘調査: 三木市教育委員会・三木市史編さん室, 愛宕山古墳の発掘調査を実施し、墳丘形態、築造時期などについて新知見を得るとともに、地元住民向けの説明会を開催した。

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

和歌山県特別史跡岩橋千塚古墳群追加指定にかかる有識者会議・委員, 2023 年 1 月～現在に至る

文化庁技術審査会・委員, 2022 年 7 月～現在に至る

宮内庁陵墓管理委員会・委員, 2022 年 5 月～現在に至る

鹿児島県鹿屋市岡崎古墳群検討委員会・委員, 2021 年 9 月～現在に至る

日本学術会議・連携委員, 2020 年 10 月～現在に至る

愛知県史跡断夫山古墳調査検討委員会・委員, 2020 年 7 月～現在に至る

百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産学術委員会・委員, 2019 年 4 月～現在に至る

三木市史通史編専門委員会・委員, 2016 年 12 月～現在に至る

藤井寺市史跡古市古墳群整備検討委員会・委員, 2016 年 8 月～現在に至る

羽曳野市史跡古市古墳群整備検討委員会・委員, 2016 年 8 月～現在に至る

鹿児島県東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会・委員, 2016 年 6 月～現在に至る

南あわじ市松帆銅鐸調査研究委員会・委員, 2016 年 5 月～現在に至る

文化庁文化審議会文化財分科会第1専門調査会・委員, 2015 年 3 月～現在に至る

文化庁文化審議会文化財分科会第3専門調査会・委員, 2015 年 3 月～現在に至る

高槻市史跡整備検討会・委員, 2014 年 4 月～現在に至る
兵庫県立考古博物館運営委員会・委員, 2013 年 3 月～現在に至る
桜井市纏向遺跡調査委員会・委員, 2011 年 10 月～現在に至る
豊中市文化財審議委員会・委員, 2010 年 4 月～現在に至る
川西市文化財審議委員会・委員, 2006 年 6 月～現在に至る
大阪府立近つ飛鳥博物館運営協議会・委員, 2006 年 6 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

濱田青陵賞選考委員会・委員, 2023 年 2 月～現在に至る
奈良県立橿原考古学研究所・共同研究員, 2022 年 4 月～現在に至る
一般財団法人大阪市文化財協会・理事, 2020 年 6 月～現在に至る
考古学研究会常任委員, 2020 年 4 月～現在に至る
公益財団法人三菱財団人文科学選考委員会・委員, 2019 年 10 月～現在に至る
大阪大学接合科学研究所・共同研究員, 2013 年 7 月～現在に至る
桜井市纏向学研究センター・共同研究員, 2012 年 11 月～現在に至る
考古調査士資格認定機構・資格審査専門委員, 2007 年 12 月～現在に至る
考古学研究会関西例会・世話人, 1980 年 4 月～現在に至る

高橋 照彦 教授

1966 年生。1992 年京都大学大学院文学研究科博士後期課程中退。博士（文学）（京都大学、2014 年）。国立歴史民俗博物館考古研究部助手、奈良国立博物館学芸課研究員を経て、2002 年大阪大学大学院文学研究科助教授、2007 年同准教授、2015 年同教授。2022 年 4 月より大学院人文学研究科 現職。専攻：日本考古学、東アジア考古学

1. 論文

高橋照彦「三彩から緑釉陶器・白色土器へ―平安京を彩ったやきもの」『平安のやきもの―その姿、うつろいゆく』, pp.16-23, 査読無, 2022/10/29
安田あゆみ, 高橋照彦「高男寺廃寺出土軒瓦の基礎的検討―東播磨における中世瓦の瓦当文様と製作技法―」『市史研究みき』第 6 号, pp.1-26, 査読無, 2022/12/20

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

高橋照彦「正倉院宝物をめぐる諸問題―三彩小塔再考―」, 豊中歴史同好会例会, 豊中歴史同好会, 豊中市立蜷池公民館（対面）, 2022/9/10
小倉頌子, 奥山誠義, 坂本豊治, 高橋照彦, 黒田祐介「出雲市鹿蔵山遺跡出土奈良三彩の胎土分析」, 日本文化財科学会第 39 回大会, 日本文化財科学会, 千葉大学（対面）, 2022/9/11
高橋照彦「古代日本における須恵器と施釉陶器の生産と流通―丹波篠窯跡群西山 1 号窯の調査とその成果を中心に―」, 京都大学考古学談話会大会, 京都大学考古学談話会, 京都大学（オンライン）, 2022/11/12
高橋照彦「三彩から緑釉陶器・白色土器へ―平安京を彩ったやきもの」, 愛知県陶磁美術館特別展記念講演会, 愛知県陶磁美

術館, 愛知県陶磁美術館(対面), 2022/12/18

高橋照彦「日本における奈良・平安期の施釉陶器生産」, 国際学術シンポジウム「東アジア都市文明の考古学研究」, 東亜大学
東アジア文化圏形成研究プロジェクト室, 東亜大学(オンライン), 2023/1/29

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況 (研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 高橋照彦

課題番号: 19K01095

研究題目: 平安時代の物資流通に関する多角的基礎研究—須恵器・施釉陶器・中国陶磁を中心に—

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

レイロウ城の調査・研究 : ベトナム国家歴史博物館, ベトナム

9. 地域連携による研究活動状況

三木市史にかかわる調査 : 三木市教育委員会, 2018/4/1～

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

三木市史編さん委員会考古部会委員 : 三木市史編さん室, 2018/4/1～

11. 外部役員等の引き受け状況

京都府埋蔵文化財調査研究センター・理事, 2019 年7月～現在に至る

東洋陶磁学会・常任委員, 2009 年5月～現在に至る

史学研究会・評議員, 2005 年11月～現在に至る

上田 直弥 助教

1990 年生。2018 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 (考古学専攻) 修了。博士 (文学) (大阪大学、2018 年)。

2018 年4月より現職。専攻: 考古学

1. 論文

上田直弥「古墳時代堅穴系埋葬施設の諸問題」『考古学ジャーナル』第 767 号, pp.42-47, 査読無, 2022/4/22

上田直弥「横穴式石室からみた古墳時代の首長 近畿」『季刊考古学』第 160 号, pp.18-24, 査読無, 2022/7/25

上田直弥「北摂における古墳築造の画期」『つどい』第 409 号, pp.1-14, 査読無, 2022/9/1

上田直弥「淀川流域における古墳時代前半期葬制の展開」『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』,
pp.5-20, 査読無, 2022/9/30

上田直弥「埋葬施設からみた古墳時代前期・中期の首長墓系譜」『古代学研究会 2022 年度拡大例会シンポジウム資料集 首長
墓系譜の再検討』, pp.33-52, 査読無, 2022/12/17

上田直弥「三島における葬制の展開と長持形石棺」『淀川流域の古墳時代 太田茶臼山古墳と今城塚古墳をめぐって』季刊考古

学 別冊 39 号, pp.68-77, 査読無, 2022/12/25

上田直弥「埋葬施設からみた古墳時代前半期の東北と近畿」『国家形成期におけるヤマト政権と地域権力の相互関係の再定義—東北地方を中心に—』, pp.25-34, 査読無, 2023/3/12

2. 著書 (単著・編著)

福永伸哉・上田直弥(編)『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』大阪大学大学院人文学研究科, 2022/9/30

高橋照彦・上田直弥(編)『宝塚市万籟山古墳第3次調査概報(『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』所収)』大阪大学大学院人文学研究科, pp.71-106, 2022/9/30

高橋照彦・上田直弥(編)『宝塚市八州嶺古墳調査概報(『畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解』所収)』大阪大学大学院人文学研究科, pp.107-134, 2022/9/30

上田直弥『古墳時代の葬制秩序と政治権力』大阪大学出版会, 2022/9/30

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

上田直弥「東日本における前期首長墳埋葬施設の基礎的検討—日本海側を中心に—」, 科研基盤(B)「国家形成期におけるヤマト政権と地域権力の相互関係の再定義—東北地方を中心に—」第5回研究集会(zoom 会議), 一般、基盤研究(B)、20H01342、研究代表者: 菊地 芳朗、2020s-2022s(オンライン), 2022/7/18

上田直弥「兵庫の古墳埋葬施設からみた前・中期古墳における変化」, 兵庫考古談話会シンポジウム『前期古墳と中期古墳における器物や造墓集団の変化』, 兵庫考古談話会(オンライン), 2022/11/20

上田直弥「野中古墳石製模造品の基礎的検討」, 科研基盤 B「陪冢と大量器物埋納の再分析に基づく巨大古墳群の構造把握と社会複雑化過程の研究」2022 年度第5回研究会, 一般、基盤研究(B)、A22H00716a、研究代表者: 橋本達也、2022s-2025s(オンライン), 2022/11/21

上田直弥「埋葬施設からみた古墳時代前期・中期の首長墓系譜」, 古代学研究会 2022 年度拡大例会シンポジウム 首長墓系譜の再検討, 古代学研究会, 大阪歴史博物館4F講堂(対面), 2022/12/17

上田直弥「埋葬施設からみた古墳時代前半期の東北と近畿」, シンポジウム「ヤマト政権と地域権力の相互関係—東北地方を中心に—」, 福島大学行政政策学類考古学研究室, 郡山市民プラザ大会議室(対面), 2023/3/12

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2023 年度、若手研究、代表者: 上田直弥

課題番号: 21K13135

研究題目: 中期古墳における埋葬施設構造の多様性と規範性の推移とその歴史背景

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

三木窯跡群出土資料の調査・研究：三木市

三木市史にかかわる調査：三木市教育委員会, 2022/4/1～

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

考古学研究会・常任委員, 2018 年 4 月～現在に至る

日本文学・日本語史学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

日本文学

■大学院：論文作成のための演習授業に加え、7 月、11 月に院生発表会を、10 月に修士論文・卒業論文中間発表会を行い、卒業・修士・博士論文執筆に向けての指導を行った。また学会発表・投稿論文作成のための個別指導も発表会とは別に行った。

『待兼山論叢』『語文』『詞林』『阪大近代文学研究』『上方文藝研究』などの、学内・研究室で刊行している雑誌への投稿を促した結果、学会誌等も含めて 17 本の論文が掲載され、学会・研究会での研究発表も 28 本を数えるという状況にある。

日本語史学

■大学院・共通：研究発表会を 2022 年 7 月および 11 月に実施し、2 名が博士前期課程を修了した。学部・大学院合同の講義を半期 4 コマ実施した。大学院生の論文が、学会誌等にのべ 6 本掲載され、研究発表が 4 本行われた、という状況である。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 4 名 准教授 2 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：岡島 昭浩、滝川 幸司、斎藤 理生、岸本 恵実

准 教 授：渡邊 英理、勢田 道生

助 教：市地 英

1-2-2 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		11	6	1	0	1	3
留学生	国費	0	0	0	0	0	2
	私費	5	3	1	1	0	0

*うち留学生 11 名、社会人学生 0 名

【文学研究科】 日本文学・国語学		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		10・2	11・5	0・0	0・0	0・0	0・0

留学生	国費	2・0	0・0	0・0	0・0	0・0	0・0
	私費	3・1	4・0	0・0	0・0	0・0	0・0

*うち留学生 10 名、社会人学生 0 名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者		大学院 博士後期(D) 単位修得退学者		大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者	
人文学研究科						
文学研究科	日本文学	国語学	日本文学	国語学	日本文学	国語学
	9	2	4	0	2	0

1—3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022 年度)

【人文学研究科】 0 名

【文学研究科】 0 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

なし

1—4. 地域連携

1-4-1 社学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

「和歌山文芸フェスティバル 2022・トークイベント——作家・中上紀×渡邊英理」和歌山文芸フェスティバル実行委員会(8 月 7 日:渡邊)

「本のあるところ ajiro トークイベント・路を「仮説」する——対談・柿木伸之×渡邊英理」本のあるところ ajiro(9 月 23 日:渡邊)

「立命館大学金曜講座・「人間と人間でないものの相互作用」立命館大学国際言語文化研究所(10 月 14 日:渡邊)

「没後 30 年・中上健次をとらえなおす——鼎談・奥泉光×いとうせいこう×渡邊英理」近畿大学文芸学部(1 月 17 日:渡邊)

「桜桃忌に読む太宰治 三鷹・東京・津軽—太宰治の地名の使い方—」毎日文化センター(6 月 19 日:斎藤)

「新聞小説が刻んだ歴史～大佛次郎『帰郷』をめぐる～」毎日文化センター(8 月 7 日:斎藤)

「太宰治『人間失格』を読み直す—大庭葉蔵の手記のくふう」茨木市立川端康成文学館(10 月 30 日:斎藤)

「古今和歌集の基礎知識」NHK カルチャー梅田教室(3 月 23 日:滝川)

1—5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

中山一磨

蒲姣艶

【学術振興会特別研究員】 注) 3 年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1 : 2 名 DC2 : 1 名 PD : 1 名 RPD : 0 名 (計 4 名)

【文学研究科】日本文学 DC1：2名 DC2：1名 PD：1名 RPD：0名（計4名）
 【文学研究科】国語学 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	1(0)	1(0)	0(0)	2(0)	1(1)	5(1)
文学研究科 日本文学	1(1)	5(4)	2(0)	0(0)	0(0)	8(5)
文学研究科 国語学	4(2)	0(0)	1(1)	0(0)	1(0)	6(3)
計	6(3)	6(4)	3(1)	2(0)	2(1)	19(9)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	3	12	0	0	15
文学研究科 日本文学	0	6	4	0	1	11
文学研究科 国語学	0	3	1	0	0	4
計	0	12	17	0	1	30

1-6-3. 業績

(1)論文（査読、SCOPUS 論文掲載の有無）

【人文学研究科】

〔博士前期〕日本文学

田中聡一「坂口安吾「地方文化の確立について」論——『月刊にひがた』一九四六年三月号という＜磁場＞に注目して——」

『第7回大阪大学大学院人文学研究科若手研究者フォーラム プロシーディング』, pp. 67-70, 査読有, 2023/3/24

篠原美夏「和歌における「あさぼらけ」と「あけぼの」の相違について——新古今期までを中心に——」『詞林』第72号, pp. 22-33, 査読無, 2022/10/20

〔博士後期〕日本文学

川渕紗佳『『雨夜談抄』の人物比定』『詞林』第71号, pp. 13-26, 査読無, 2022/4/20

川渕紗佳「藤裏葉巻「藤花宴」の注釈史——その開催日をめぐる問題」『寺院文献資料学の新展開第四巻 安住院資料の調査と研究』, pp. 163-184, 査読無, 2022/7/20

飯田実花『『原中最秘抄』「目次」の成り立ち——安住院蔵断簡を端緒として』『寺院文献資料学の新展開 第四巻 安住院資料の調査と研究』, pp. 127-162, 査読無, 2022/7/31

【文学研究科】日本文学

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

鄧鈴「佐藤春夫「都会の憂鬱」試論——経済とジェンダーの観点から読む「家」の物語——」『第6回若手研究者フォーラム』

ム要旨集』(大阪大学大学院人文学研究科編、2022年9月5日、大阪大学大学院人文学研究科), pp.15-19, 査読有, 2022/9/14

李慕遥「芥川龍之介「南京の基督」における近代化の表象」『第6回若手研究者フォーラム要旨集』(大阪大学大学院人文学研究科編、2022年9月5日、大阪大学大学院人文学研究科), pp.55-58, 査読有, 2022/9/14

服部峰大「宮沢賢治「雪渡り」に描かれた近代一狐の示す魅力と疑わしさ」『語文』第119号, pp.27-39, 査読有, 2022/12/10

服部峰大「宮沢賢治「ざしき童子のはなし」論—「田舎」を巡る物語」『阪大近代文学研究』第21号, pp.34-49, 査読有, 2023/3

レッキー・リチャード・ウィリアム「村山知義「巴里」論—アヴァンギャルドと「変態性欲」」『語文』第118輯, pp.56-69, 査読有, 2022/6/30

レッキー・リチャード・ウィリアム「岩藤雪夫の挑戦—「人を喰った機関車」と「赤い灯」を中心に—」『阪大近代文学研究』第21号, pp.50-67, 査読有, 2023/3

小西洋子・黄夢鵠「藤原浜成『歌経標式』序 注釈」『詞林』第72号, pp.34-65, 査読無, 2022/10/20

黄夢鵠『和漢名所詩歌合』に関する一考察—形式と名所題をめぐって—『BUNRON・国文学研究ジャーナル』第9号, pp.1-14, 査読有, 2022/12/30

黄夢鵠「翻訳実践と考察 『後拾遺集』25番歌の中国語訳」『世界の中の和歌3—多言語翻訳を通してみる日本文化の受容と変容—』第3号, pp.21-22, 査読無, 2022/3/1

黄夢鵠「先行翻訳の紹介と考察 『古今集』938番歌の中国語訳」『世界の中の和歌3—多言語翻訳を通してみる日本文化の受容と変容—』第3号, pp.87-90, 査読無, 2022/3/1

黄夢鵠「先行翻訳の紹介と考察 『古今集』938番歌の中国語訳」『世界の中の和歌3—多言語翻訳を通してみる日本文化の受容と変容—』第3号, pp.87-90, 査読無, 2022/3/1

黄夢鵠「先行翻訳の紹介と考察 『古今集』938番歌の中国語訳」『世界の中の和歌3—多言語翻訳を通してみる日本文化の受容と変容—』第3号, pp.87-90, 査読無, 2022/3/1

武久真士「三好達治の四行詩における〈写生〉と〈風景〉——「主客両観」論を手がかりに——」『昭和文学研究』第86号, pp.92-106, 査読有, 2023/3/1

小西洋子「慶滋保胤「為大納言藤原卿息女女御四十九日願文」考—型の継承と対句表現の独自性について—」『語文』第119号, pp.1-13, 査読有, 2022/12/10

【文学研究科】国語学

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

伊藤智弘「「字鏡集」における「和訓化」方針について」『訓点語と訓点資料』第149巻, pp.130-105, 査読有, 2022/9/30

伊藤智弘「基本文字から見る岩村式カナ速記法の変遷」『過去の速記原本を可読化するための日本語速記史の研究 2021年度研究成果報告書』, pp.283-296, 査読無, 2022/9/20

伊藤智弘「〈紹介〉岸本恵実・白井純編『キリシタン語学入門』」『語文』第119巻, pp.59-60, 査読無, 2022/12/10

西谷龍二「「卑罵語ヤガル(アガル)の用法の拡張について」」『語文』第119巻, pp.77 (16) -63 (30), 査読有, 2022/12/10

黒星淑子「助詞「へ」の上接名詞句についての一考察」『待兼山論叢』第56号, pp.19-38, 査読有, 2023/1/7

黒星淑子「〈紹介〉高山善行著『日本語文法史の視界—継承と発展をめざして—』」『語文』第118巻, pp.77-77, 査読無, 2022/6/30

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕

田中聡一「トランスインペリアル・ヒストリーからみる東アジア経済成長の再考—歴史教育における戦前と戦後の「接続」を目指して—」, 大阪大学歴史教育研究会第147回例会, 大阪大学歴史教育研究会, 大阪大学 (ハイブリッド), 2022/12/17

田中聡一「土の中からの話」論——典拠および「私」語りの検討を中心に——, 坂口安吾研究会第40回研究集会,

坂口安吾研究会, 日本大学・商学部 (ハイブリッド), 2023/3/5

田中聡一「坂口安吾『地方文化の確立について』論——『月刊にひがた』一九四六年三月号という〈磁場〉に注目して——」, 第7回大阪大学大学院人文学研究科若手研究者フォーラム, 大阪大学大学院人文学研究科, 大阪大学 (ハイブリッド), 2023/3/24

篠原美夏「和歌における「あさぼらけ」と「あけぼの」の相違について」, 第319回大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学文法経本館大会議室 (ハイブリッド), 2022/5/14

篠原美夏「『春曙』題の始点と展開——「曙」と「あけぼの」の関係から——」, 第324回大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学文法経本館大会議室 (ハイブリッド), 2023/1/28

李恬恬「平安朝の竟宴詠史詩について——「北堂漢書竟宴各詠史得淮南王劉安」を中心に——」, 第326回大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学・文法経本館2階大会議室 (ハイブリッド), 2023/3/25

李宗元「『大和物語』と『後撰集』の関係性——私家集『兼輔集』を媒介に——」, 第325回大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学豊中キャンパス 文法経本館2階大会議室 (ハイブリッド), 2023/2/18
〔博士後期〕

周梅「〈現実〉と〈反現実〉——太宰治『トカトン』論」, 第71回研究集会, 昭和文学会, 明治大学・駿河台キャンパス (ハイブリッド), 2022/12/10

安 佰潔「『古今和歌集』における色彩の表現——「染む」を中心に——」, 第325回大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学・文法経本館2階大会議室 (ハイブリッド), 2023/2/18

川淵紗佳「室町中後期における『源氏物語』第三部の注釈態度——登場人物の呼称に対するまなざし——」, 第318回大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学 (ハイブリッド), 2022/4/16

川淵紗佳「室町中期における『源氏物語』の注釈態度——第三部の呼称不審に着目して——」, 中古文学会関西部会第61回

例会, 中古文学会関西部会, 関西大学 (ハイブリッド), 2022/6/4

川淵紗佳「三条西実隆と『源氏物語』第三部の呼称不審——「宇治昇進雑乱」を起点として——」, 古注の会11月例会, 古注の会, 早稲田大学 (オンライン), 2022/11/5/

川淵紗佳「備中国分寺蔵西大寺流聖教に対する考察」, 第7回 寺院資料調査研究報告「備中国分寺の経蔵を拓く ～資料が生まれる場～」, 科学研究費補助金 基盤研究(A)「地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究」(研究代表者: 中山一麿/課題番号: 19H00529), 大阪大学 (ハイブリッド), 2023/3/12

川淵紗佳「夕霧・紅梅の呼称から見る室町後期の『源氏物語』注釈史——『一葉抄』『弄花抄』『細流抄』を起点として——」, 第326回大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学 (ハイブリッド), 2023/3/25

飯田実花「『うつほ物語』の平安京——「一条」空間を中心に——」, 大阪大学古代中世文学研究会第318回例会, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学 (ハイブリッド), 2022/4/16

【文学研究科】日本文学

〔博士前期〕

鄧羚「佐藤春夫『都会の憂鬱』試論——経済とジェンダーの観点から読む「家」の物語——」, 第6回 若手研究者フォーラム, 大阪大学大学院人文学研究科・文学部 研究推進室, 大阪大学, 大阪大学豊中キャンパス 文法経本館2階 大会議

室 (ハイブリッド), 2022/9/14

李慕遥「芥川龍之介『南京の基督』における近代化の表象」, 第6回 若手研究者フォーラム, 大阪大学大学院人文学研究科・文学部 研究推進室, 大阪大学, 大阪大学豊中キャンパス 文法経本館2階 大会議室 (ハイブリッド), 2022/9/14

松本成葉「『正治初度百首』「春」と「秋」の配列——一定家を中心に——」, 第6回若手研究者フォーラム, 人文学研究科研究推

進室, 大阪大学豊中キャンパス文法経本館2階大会議室 (ハイブリッド), 2022/9/14

〔博士後期〕

黄 夢 鶴『元久詩歌合』と『内裏詩歌合』における漢詩句の詠法」，第 322 回大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学（オンライン），2022/9/3

黄 夢 鶴「『先行翻訳の紹介と考察』『古今集』938 番歌の中国語訳」・「翻訳実践と考察『後拾遺集』25 番歌の中国語訳」，第 3 回古典文学翻訳研究会, 古典文学翻訳研究会, 早稲田大学（ハイブリッド），2022/9/3

黄 夢 鶴「詩歌合における漢詩句の詠法—『元久詩歌合』と『内裏詩歌合』を中心に—」，和漢比較文学会第 41 回大会, 和漢比較文学会, フェリス女学院大学（オンライン），2022/9/25

黄 夢 鶴『内裏詩歌合』における『和漢朗詠集』の利用」，令和 5（2023）年度大阪大学国語国文学会, 大阪大学国語国文学会, 大阪大学豊中キャンパス（対面），2023/1/7

武久真士「一九三〇年前後の詩壇における《形式》——春山・萩原論争を手がかりに」，萩原朔太郎研究 研究例会, 萩原朔太郎研究会, 前橋文学館（ハイブリッド），2022/12/3

武久真士「中原中也の散文詩——『四季』を補助線に——」，令和 5 年度大阪大学国語国文学会, 大阪大学国語国文学会, 大阪大学豊中キャンパス（対面），2023/1/7

小西洋子「慶滋保胤「為大納言藤原卿息女女御四十九日願文」における『往生要集』の思想」，第 325 回大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学古代中世文学研究会, オンライン（オンライン），2022/7/30

小西洋子「慶滋保胤「為大納言藤原卿息女女御四十九日願文」の位置付け—一人道と天道の否定に見る『往生要集』の思想—」，2022 年度仏教文学会大会, 仏教文学会, 金城学院大学（ハイブリッド），2022/9/3

小西洋子「『高唐賦』と仏教思想—空海・道真の願文を中心に—」，第 321 回大阪大学古代中世文学研究会のお知らせ, 大阪大学古代中世文学研究会, 大阪大学（ハイブリッド），2023/2/18

レッキー・リチャード・ウィリアム「大人の童話 林房雄の探偵小説とプロレタリア娯楽雑誌『大衆』」, 日本社会文学会 2022 年度秋季岡山大会, 日本社会文学会, 就実大学（ハイブリッド）, 2022/10/29

【文学研究科】国語学

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

伊藤智弘『先徳略名口訣』諸本の（再）整理」，第 7 回 寺院資料調査研究報告「備中国分寺の経蔵を拓く ～資料が生まれる場～」, 科学研究費補助金 基盤研究(A)「地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究」（研究代表者：中山一鷹／課題番号：19H00529）, 大阪大学（zoom 併用）（ハイブリッド），2023/3/12

伊藤智弘「『字鏡集』における漢字訓の和訓化について」，第 126 回訓点語学会研究発表会, 訓点語学会（オンライン），2022/5/22

伊藤智弘「松本城管理事務所蔵字書『隸字彙』二種について—内容及び成立事情の検討—」，第 128 回国語語彙史研究会, 国語語彙史研究会（オンライン），2022/4/23

黒星淑子「平家物語諸本における助詞「へ」の用法」，大阪大学国語国文学会, 大阪大学国語国文学会, 大阪大学（対面），2023/1/7

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

【文学研究科】日本文学

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

【文学研究科】国語学

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

1-6-4. 受賞（受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-6-5. 研究助成（受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科 日本文学	0	0	0
文学研究科 国語学	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】日本文学 なし

【文学研究科】国語学 なし

1-7. キャリア支援、進路**1-7-1. 進路**（就職先など、数）

【文学研究科】日本文学

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	2	0	1	0	3	4	2	9

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	3	0	3	3	6

【文学研究科】国語学

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	0	2	2

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	0	0

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】日本文学 なし

【文学研究科】国語学 なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者および学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】日本文学: 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】国語学: 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

科研費による研究プロジェクトとしては、「日本古代の大学の学問に関する基礎的研究—9、10 世紀の大学寮紀伝道を中心に—」(2021～)、「戦後日本の「(再) 開発文学研究—ジェンダー・脱人間主義・世界化の視座を中心に」(2021～)、「昭和期における掌編(コント)の研究——新聞掲載作品を中心に」(2022～)等を行った。

2022 年 1 月に「大阪大学国語国文学会」を開催し、機関誌『語文』118 輯(2022 年 6 月)、119 輯(2023 年 3 月)を刊行した。また詳細は 2-2-1、2-2-2 の研究会開催の状況を参照していただきたいが、各研究会も活発に開催され、研究誌である『詞林』69 号(2021 年 4 月)・70 号(2021 年 11 月)、『阪大近代文学研究』21 号(2023 年 3 月)を刊行した。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

【2022 年度】

[国内学会の開催]大阪大学国語国文学会総会 2023 年 1 月 7 日

[研究会の開催]

大阪大学古代中世文学研究会

2022 年度: 第 318 回 4 月 16 日、第 319 回 5 月 14 日、第 320 回 6 月 26 日、第 321 回 7 月 30 日、第 322 回 9 月 3 日、
第 323 回 11 月 26 日、第 324 回 1 月 28 日、第 325 回 2 月 18 日、第 327 回 3 月 25 日

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

＊(日本文学,国語学専門分野とともに)

大阪大学国語国文学会 (1月1日間)

研究誌「語文」の編集・発行 2022年度2回

＊(日本文学,国語学,比較文学専門分野とともに)

卒業論文・修士論文中間発表会 (2022年度10月5日間)

大学院研究発表会 (2022年度7月・11月 各2日間)

専門分野主催の研究会等の活動については、2-2-1に詳述した。

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI) 第5回研究者フォーラム「研究者が／AIが／私が“言葉”で描く世界とは」大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI) (渡邊:9月29日)、

ワークショップ「小説を読みとく、思想を読みとる」國學院大学共同研究「文学と哲学」(12月24日:渡邊)

「GJS Research Workshop」在日文学再考——作家・温又柔さんをお迎えして」「李良枝再読」(渡邊:1月21日)

2-2-4. 刊行物

『語文』(大阪大学国語国文学会)第118輯・119輯

『詞林』(大阪大学古代中世文学研究会)第71号・第72号

『阪大近代文学研究』(大阪大学近代文学研究会)第21号

2—3. 教員の研究活動

岡島 昭浩 教授

1961年生。1987年、九州大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学修士(九州大学、1986年)。九州大学文学部助手、京都府立大学女子短期大学部講師・助教授、福井大学教育学部(教育地域科学部)助教授、大阪大学文学研究科助教授・准教授を経て2010年同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻:国語史・日本語学史

1. 論文

なし

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020年度～2023年度、挑戦的(開拓・萌芽)研究、代表者:岡島昭浩

課題番号:20K20698

研究題目:過去の速記原本を可読化するための日本語速記史の研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

訓点語学会・委員, 2017 年 8 月～現在に至る

日本語学会・評議員, 2009 年 6 月～現在に至る

国語文字史研究会・委員, 2008 年 4 月～現在に至る

国語語彙史研究会・委員, 2003 年 4 月～現在に至る

滝川 幸司 教授

1969 年生。1998 年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）（大阪大学）。1998 年奈良大学文学部専任講師、2003 年同助教授、2007 年同准教授、2013 年同教授、2015 年京都女子大学文学部教授。2019 年 10 月大阪大学大学院文学研究科教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：平安文学

1. 論文

滝川幸司「千穎集序をめぐって」『詞林』第 72 号, pp.1-21, 査読無, 2022/10/1

滝川幸司「発心和歌集序試読―選子内親王作者説をめぐって―」『中古文学』第 109 号, pp.85-99, 査読有, 2022/5/1

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

滝川幸司(インタビュー)「菅原道真の生涯について」『歌劇』第 1169 号, pp.91-93, 2023/2/5

滝川幸司(コメント)「とちぎ日曜歴史館・国司菅原道真について」『読売新聞・栃木版』, pp.26-26, 2022/8/7

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:滝川幸司

課題番号:21K00305

研究題目:日本古代の大学の学問に関する基礎的研究—9、10 世紀の大学寮紀伝道を中心に—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

和歌文学会・編集委員, 2018 年 11 月～2022 年 10 月

中古文学会・委員, 2015 年 6 月～現在に至る

和漢比較文学会・論集編集委員, 2011 年 10 月～2022 年 9 月

和歌文学会・委員, 2006 年～現在に至る

和漢比較文学会・常任理事, 2003 年 10 月～現在に至る

中古文学会関西支部・委員, 2002 年～現在に至る

斎藤 理生 教授

1975 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）（大阪大学、2004 年）。群馬大学教育学部講師、同准教授を経て、2014 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科准教授、2021 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本近現代文学

1. 論文

斎藤理生「『資料紹介』「朝日新聞」大阪版および東京版におけるコント(一九五〇—一九五一)」『阪大近代文学研究』第 21 号, pp.68-78, 査読無, 2023/3/30

斎藤理生「全集未収録エッセイ三篇 萩原朔太郎 千恵蔵の成功／最近に於ける文化問題の基因／風流惻隠の情」『萩原朔太郎研究会会報 SAKU』第 87 号, pp.85-94, 査読無, 2022/10

斎藤理生「被占領下の『大和古寺風物誌』—プランゲ文庫所蔵本の痕跡から—」『国語国文』第 91 巻第 6 号, pp.1-18, 査読有, 2022/6

斎藤理生「資料紹介「豆自傳」」『三島由紀夫研究』第 22 号, pp.129-130, 査読無, 2022/4

2. 著書（単著・編著）

飯田祐子, 石川巧, 斎藤理生, 他(分担執筆)『文学研究の扉をひらく 基礎と発展』ひつじ書房, pp. 97-113, 2023/2

斎藤理生, 松本和也, 水川敬章 他(共編著)『卒業論文マニュアル 日本近現代文学編』ひつじ書房, pp. 7-14. 88-105, 202-205, 2022/10

斎藤理生(単独編集)『織田作之助新聞小説コレクション』創元社, (担当:オダサクー一九四六一京都・大阪・新聞小説)pp.285-295,

2022/9

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

斎藤理生『『定本横光利一全集』未収録文章集成解題（「穴居の生活」「永久の勝利へ 征戦第二年の想念」）』『横光利一研究別冊』, pp. 67-67, 70-70, 2023/3

斎藤理生(ラジオ)「“ダザイって、めっちゃ笑えるな”！ 教科書に載らないほうの太宰治入門」『TBS ラジオ・アフター6 ジャンクショーン』, 2022/11/15

4. 口頭発表

斎藤理生「「中京新聞」文藝欄と新延修三あるいは藤澤恒夫の人的交流―「原子小説」を中心に」, 新聞小説を考える会・2022年度春季共同研究会 1920-40年代の新聞小説・新聞媒体, 新聞小説を考える会, 立教大学(対面), 2023/3/22

斎藤理生「「ニュース小説」という試み―「時事新報」・大宅壮一・武田麟太郎」, 新聞小説を考える会・2022年度夏季共同研究会 新聞小説の複合的考察, 新聞小説を考える会(オンライン), 2022/9/7

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022年度～2026年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 斎藤理生

課題番号: 22K00293

研究題目: 昭和期における掌篇(コント)の研究―新聞掲載作品を中心に

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

国文学研究資料館・国際連携委員, 2020年4月～現在に至る

日本近代文学会・評議員, 2018年4月～現在に至る

昭和文学会・幹事, 2016年5月～現在に至る

岸本 恵実 教授

1972年生。2000年、京都大学大学院文学研究科国語学国文学専修博士後期課程研究指導認定退学。博士（文学）（京都大学、2003年）。大阪外国語大学助手・講師・助教授、国際基督教大学准教授、京都府立大学准教授、2017年4月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022年4月より大学院人文学研究科 現職。専攻：国語学

1. 論文

岸本恵実 「「奉教人の死」「きりしとほろ上人伝」の外来語表記」『芥川龍之介研究』第 16 号, 国際芥川龍之介学会事務局, pp.1-15, 査読有, 2022/12/25

岸本恵実 「明治初期パリ外国宣教会の語学書・エヴラール『日本語教程』(1874)研究序説」『語文』第 119 巻, 大阪大学国語国文学会, pp.78-92, 査読無, 2022/12/10

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

岸本恵実(Web 記事)「宣教師が翻訳した和歌—キリシタン版『日葡辞書』と幕末のフュレ神父—」, グローバル日本学教育研究拠点 2023 年コラム, <https://www.gjs.osaka-u.ac.jp/column/2023/2217/>, 2023/3/6

岸本恵実 「フラスール第 4 回 日本書誌」『季刊永青文庫』119, pp. 34-34, 2023/1/14

4. 口頭発表

岸本恵実 「版本『サントスのご作業』の「¶」(ピルクロウ)と「;」(セミコロン)」, 第 17 回キリシタン語学研究会, キリシタン語学研究会 (オンライン), 2023/3/20

Kishimoto, Emi, “Translation of Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum (1595)”, GUEST LECTURE, ハイデルベルク大学 日本学研究所・東アジア研究センター, ハイデルベルク大学(対面), 2022/11/30

岸本恵実 「キリシタン文献の用語について」, GASTVORTRAG IN JAPANISCHER SPRACHE, ハイデルベルク大学日本学研究所・東アジア研究センター, ハイデルベルク大学(対面), 2022/11/29

岸本恵実 “THE INFLUENCE OF THE VOCABULARIO DA LINGOA DE IAPAM IN PORTUGUESE DICTIONARIES”, MINI ENCONTRO DOS ALUNOS DE PÓS-GRADUAÇÃO EM HISTORIOGRAFIA LINGUÍSTICA 2022, Centro de Documentação em Historiografia Linguística (CEDOCH-USP), サンパウロ大学(オンライン), 2022/11/8

岸本恵実 「明治初期パリ外国宣教会の語学書・エヴラール『日本語教程』(1874)の人称代名詞について」, 第 16 回キリシタン語学研究会, キリシタン語学研究会 (オンライン), 2022/8/20

岸本恵実 「明治初期パリ外国宣教会の語学書—エヴラール『日本語教程』(1874)について—」, 第 394 回日本近代語研究会, 日本近代語研究会 (オンライン), 2022/7/23

Kishimoto, Emi, “Inconsistencies in the Translation of the Latin-Portuguese-Japanese Dictionary (1595)”, International Conference on Historical Lexicography and Lexicology 2022, International Society for Historical Lexicography and Lexicology, I’ENSIBS(ハイブリッド), 2022/6/22

岸本恵実 「キリシタン文献を読む(シンポジウム「文献資料を読む —中世語研究の継承と展開—」)」, 日本語学会 2022 年度春季大会, 日本語学会 (オンライン), 2022/5/15

岸本恵実 「キリシタン時代における「Pastor(羊飼い)」の翻訳」, キリシタン科研総括研究会／キリシタン学研究会再開第 1 回研究会, 「近世日本のキリシタンと異文化交流」【2017～2020 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(一般)17H02392)】(オンライン), 2022/4/17

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:岸本恵実

課題番号: 19K00626

研究題目:知識受容の面からみたキリシタン対訳辞書の研究

6-2. 2022 年度～2023 年度、特別研究員奨励費、代表者:岸本恵実

課題番号: 22KF0233

研究題目:西洋宣教言語学から見た琉球語の音韻・語彙の研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

キリシタン語学研究会世話役

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

国語語彙史研究会・委員, 2018 年 5 月～現在に至る

渡邊 英理 准教授

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得後満期退学。博士(学術)(東京大学、2012 年)。宮崎公立大学人文学部准教授、静岡大学人文社会科学部准教授などを経て、2021 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科准教授、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻:近現代日本語文学、批評

1. 論文

渡邊英理「耳の聞こえぬ蛇——中上健次『蛇姪』」『翻訳の文化／文化の翻訳』第 18 号, pp.35-39, 査読無, 2023/3/31

渡邊英理「道を「仮設」する——石牟礼道子『椿の海の記』を読む」『日本文学』第 72 巻第 3 号, pp.50-54, 査読無, 2023/3/10

渡邊英理「連なり越えゆく世界を感受する」『語文』第 118 号, pp.12-27, 査読無, 2022/6/30

2. 著書（単著・編著）

渡邊英理, 青山真治, 阿部和重 他(共著)『青山真治——アンフィニッシュドワークス』河出書房新社, pp.53-62, 2023/3/30

大澤真幸, 鹿島茂, 渡邊英理他(共著)「希望の現実化のために」『文藝春秋』2023 年 2 月号, 文藝春秋, pp. 216-221, 2023/1/7

斎藤理生, 松本和也, 渡邊英理他(共著)『卒業論文マニュアル』ひつじ書房, pp.106-123, 2022/10/25

蓮實重彦, 島田雅彦, 渡邊英理他(共著)「胡同と路地」『文藝春秋』2022 年 9 月号, 文藝春秋, pp.152-153, 2022/8/6

渡邊英理(単著)『中上健次論』インスクリプト, 520p., 2022/7/8

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

渡邊英理(新聞記事)「大江健三郎の時代(上)」大江健三郎氏の逝去に際し、大江文学の意義を語る。作家・井上荒野氏とともに識者のコメントとして掲載、『共同通信』, 京都新聞, 上毛新聞ほか全国各紙に配信, 4 面, 2023/3/15

渡邊英理(インタビュー記事)「開発から地方を捉え直す」拙著『中上健次論』著者インタビュー、中上文学の現代的意義などを語る, 『南日本新聞』2023 年 3 月 10 日号, 10 面, 2023/3/10

渡邊英理(巻頭対談)「中上健次を「いま」読む意義」大妻女子大学教授・内藤千珠子氏との対談、『図書新聞』3565号,1面, 2022/11/5

渡邊英理(新聞記事)「かけがえのない読書体験——渡辺京二発言集「幻のえにし」「肩書のない人生」評」『図書新聞』3549号, 8面, 2022/7/2

渡邊英理(分担執筆)『占領期地方総合文芸雑誌事典』金沢文圃閣, 担当範囲: 鹿児島県・奄美群島(単独執筆)、静岡県(副田賢二氏と共著), 2022/6

紅野謙介, 五味渕典嗣, 渡邊英理他(項目執筆)『日本近代文学大事典』増補改訂デジタル版(ジャパナレッジ), 公益財団法人日本近代文学館, 講談社, 項目: 干刈あがた, 2022/6/1

4. 口頭発表

渡邊英理「没後30年 中上健次をとらえなおす」, 没後30年 中上健次をとらえなおす, 近畿大学文芸学部, 近畿大学文芸学部(ハイブリッド), 2023/1/17

渡邊英理「小説とポストヒューマニティ——中上健次の「思想文学」」, ワークショップ: 小説をよみとく、思想を読みとる, 國學院大学文学部共同研究費「文学と哲学」, 國學院大学(オンライン), 2022/12/24

渡邊英理「差別(論)と文学」, 日本社会文学会 2022 年秋季大会 特集シンポジウム・差別と文学, 日本社会文学会, 岡山就実大学(ハイブリッド), 2022/10/29

渡邊英理「中上健次のポストヒューマン思想——歴史と小説のポストヒューマニティ」, 2022 年度立命館大学国際言語文化研究所連続講座 人間と人間でないものの相互作用, 立命館大学言語文化研究所, 立命館大学(ハイブリッド), 2022/10/14

渡邊英理「文学的言語が開く世界——虚構・「仮設」・「現場性」」, 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)第5回研究者フォーラム「研究者がAI が/私が「言葉」で描く世界とは」, 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI), 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)(ハイブリッド), 2022/9/29

渡邊英理「道を「仮設」する——中上健次をめぐる」, 道を「仮設」する, 書肆侃侃房, 本のあるところ ajiro(ハイブリッド), 2022/9/23

渡邊英理「『中上健次論』を書く」, 10 年後の博論審査会, インスクリプト, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/9/4

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2025 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 渡邊英理

課題番号: 21K00263

研究題目: 戦後日本の「(再)開発文学」研究: ジェンダー・脱人間主義・世界化の視座を中心に

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

第5回森崎和江研究会「森崎和江と『闘いとエロス』を読み継ぐ」2022年7月30日 大阪大学豊中キャンパス

国際日本学教育研究拠点共催

国際ワークショップ「帝国／ポスト帝国の境界と表象」2022年12月19日 大阪大学豊中キャンパス

GJS リサーチワークショップ 2023 年 1 月例会「「在日」文学再考——作家・温又柔さんを迎えて」2023 年 1 月 22 日, 23 日 大阪大学豊中キャンパス 国際日本学教育研究拠点主催

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

昭和文学会・幹事, 2022 年 4 月～現在に至る

日本近代文学会・評議員, 2022 年 4 月～現在に至る

昭和文学会・編集委員会委員, 2020 年 8 月～2022 年 8 月

勢田 道生 准教授

1980 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。博士（文学）（大阪大学、2011 年）。大阪大学大学院文学研究科助教、日本学術振興会特別研究員(PD)、大阪大学大学院文学研究科特任講師（常勤）を経て、2017 年 10 月同准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科現職。（2022 年 9 月退職）。専攻：日本中近世文学

1. 論文

なし

2. 著書

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

市地 英 助教

1990年生。2020年、大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻博士後期課程修了、博士(文学)。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻:日本語史学/日本語学。

1. 論文

市地英 「言語資料としての『西籍概論』諸本—ジャ・ダの使用傾向と改変—」『語文』第118号, pp.28-43, 査読有, 2022/6/30

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

基盤日本語学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

- 論文作成演習や専門分野全体の論文中間発表会をととして、専門分野内での議論を活性化した。
- コーパスの作成、言語データの分析、日本語教育実習等を取り入れた実践的な課題追求型の演習科目を開講し、指導を行った。フィールド調査は、コロナ禍の影響もあり実施できなかった。
- 各種学会の口頭発表や査読雑誌への論文投稿にあたって、個別指導を行った。
- 学部生との共通演習を開講し、研究室内において調査・研究の手法等の教育が効果的に行われるようにした。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 5 名 准教授 2 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：石井 正彦、田野村忠温、渋谷 勝己、マシュー・バーデルスキー、三宅 知宏

准 教 授：高木 千恵、眞野 美穂

助 教：李 頌雅

1-2-2 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		3	3	0	0	0	3
留学生	国費	0	1	0	0	0	2
	私費	1	1	0	1	0	1

*うち留学生 6 名、社会人学生 0 名

【文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		6	9	1	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	4	5	0	0	0	0

*うち留学生 9 名、社会人学生 4 名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	5	0	1

1―3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022 年度）

【人文学研究科】 2 名

【文学研究科】 0 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

計 0 名

1―4. 地域連携

1-4-1 社学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

なし

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1―5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注）3 年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1：0 名 DC2：0 名 PD：0 名 RPD：0 名（計 0 名）

【文学研究科】 DC1：0 名 DC2：0 名 PD：0 名 RPD：0 名（計 0 名）

1―6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	2(2)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	4(4)
計	2(2)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	4(4)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等講演会	その他	計
人文学研究科	0	1	0	0	0	1
文学研究科	0	4	0	0	0	4
計	0	5	0	0	0	5

1-6-3. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

乾友紀「養育者と子どもの会話における「てもらう」の使用と言語社会化」『待兼山論叢』56号, p.39-54, 査読無, 2022/12, SCOPUS 論文掲載なし

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

金道瑛「相づちの場面間・言語間スタイル切り換え—ポライトネス的役割の観点から—」『日本語教育（韓国日本語教育学会）』第103号, pp.51-70, 査読有, 2023/3, SCOPUS 論文掲載なし

蔡真彦「タンデム学習におけるテキストの読み上げ活動」『阪大日本語研究』第35号, pp.57-79, 査読有, 2023/2/1, SCOPUS 論文掲載なし

宮本華瑠「言語使用実態から読み解く社会現象—“褒美”を例に—」『大阪大学大学院人文学研究科第7回若手研究者フォーラム』第7号, pp.59-62, 査読有, 2023/3/24, SCOPUS 論文掲載なし

新谷知佳（単著）「自他対応をもつ動詞における自動詞と他動詞の使用比率に基づく分析—動詞対の形態的特徴に着目して—」『KLS selected papers』第4巻, pp.73-88, 査読有, 2022/6/1, SCOPUS 論文掲載なし

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

殷琦「関西における中国人留学生の方言使用—断定辞と否定辞を中心に—」, 日本語学会 2022 年度春季大会, 日本語学会（オンライン）, 2022/5/14

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

宮本華瑠「中日対訳データ言語資源作成の進捗状況」, 日本語言語資源の構築と利用性の向上, 言語処理学会第29回年次大会 併設ワークショップ JLR2023, 沖縄コンベンションセンター（ハイブリッド）, 2023/3/17

新谷知佳「(単独)「形容詞語幹を持つ自他対応動詞の自他の使用傾向に関する分析」」, 日本語教育学会 2022 年度秋季大会, 日本語教育学会, オンライン（オンライン）, 審査有, 2022/11/27

新谷知佳「(単独)「形容詞語幹を持つ動詞の一考察—語と句の比較から—」」, 日本語文法学会 第23回大会, 日本語文法学会, オンライン（オンライン）, 審査有, 2022/12/17

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし
〔博士後期〕なし
【文学研究科】
〔博士前期〕なし
〔博士後期〕なし

1-6-4. 受賞（受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

新谷知佳，日本語教育学会 2022 年度秋季大会－大会若手優秀発表賞，日本語教育学会，2022 年度

1-6-5. 研究助成（受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	1	0	1
計	1	0	1

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】

沙広聡「近現代接尾辞「性」「化」「者」の歴史―日中両語間の相互影響―」，主査：田野村忠温教授，副査：石井正彦教授，三宅知宏教授

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	2	0	0	0	2	0	3	5

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	1	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

（大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者）

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

1. 教員、大学院生ともに、目標とした数の研究論文をほぼ執筆した。各教員はまた、科学研究費その他による共同研究プロジェクトに従事した。
2. 博士前期学生は、演習で研究成果の発表を行いつつ、学会での口頭発表・研究論文の執筆を行うことのトレーニングを重ねた。
3. 『阪大日本語研究』を刊行し、研究成果を学界に発信した。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

石井 正彦 教授

1958 年生。東北大学文学部卒、東北大学大学院文学研究科修了。博士（文学）（東北大学）。国立国語研究所研究員、同室長、大阪大学文学研究科准教授を経て、2009 年 4 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：現代日本語学

1. 論文

石井正彦「現代新聞における語結合の慣用化」『阪大日本語研究』35, 大阪大学大学院人文学研究科基盤日本語学講座, pp. 1-26, 2023/2

石井正彦「現代新聞語彙における副用語の“非基本語化”—使用率減少と散布度増加の関係からみた量的類型—」『現代日本語研究』14, 大阪大学大学院人文学研究科基盤日本語学講座現代日本語学研究室, pp. 44-60, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

石井正彦「現代新聞における語結合の慣用化—記事データベースを用いた時事的な動詞句の調査から—」第 397 回日本近代語研究会 2022 年度秋季発表大会, 日本近代語研究会, オンライン, 2022/11/5

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本語学会・評議員, 2009 年 6 月～現在に至る

田野村 忠温 教授

1958 年生。京都大学大学院文学研究科博士後期課程学修退学（言語学専攻）。文学修士（京都大学、1984）。奈良大学文学部講師、大阪外国語大学外国語学部講師、助教、同教授、大阪大学大学院文学研究科教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：言語学・日本語学

1. 論文

田野村忠温「『海国図志』版問題新論——従来未知の版区別の発見とその含意——」, 『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 巻, pp.115-143, 査読無, 2023/2/28

田野村忠温「『海録』諸版の系譜」, 『或問』第 42 号, pp.1-16, 査読無, 2022/12/30

田野村忠温「清代欧洲诸语言词典、学习书籍中的注音方式——音节结构的处理(冯玥译)」, 孙伯君・麻晓芳主编『“译音对勘”的材料与方法』, pp.375-388, 査読無, 2022/9

田野村忠温「音訳と意識——概念の体系化と歴史——」, 『或問』第 41 号, pp.141-160, 査読無, 2022/6/30

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

田野村忠温「『電視』の由来——翻訳新語研究の盲点——」, 関西大学 KU-ORCAS 研究集会(言語交渉研究班), 関西大学 KU-ORCAS(アジア・オープン・リサーチセンター), 関西大学(ハイブリッド), 2023/3/10

田野村忠温「『海国図志』版問題新論」, 関西大学 KU-ORCAS 研究例会(東西学術研究所研究例会)(言語交渉研究班), 関西大学 KU-ORCAS(アジア・オープン・リサーチセンター), 関西大学(ハイブリッド), 2022/12/17

田野村忠温「『海録』諸版とその系譜」, 関西大学 KU-ORCAS 研究例会(東西学術研究所研究例会)(言語交渉研究班), 関西大学 KU-ORCAS(アジア・オープン・リサーチセンター), 関西大学(ハイブリッド), 2022/10/28

田野村忠温「『接種』の語史——種痘関連用語の生成と消長——」, 東アジア文化交渉学会第 14 回国際学術大会, 東アジア文化交渉学会, 啓明大学校(ハイブリッド), 2022/5/8

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 田野村忠温

課題番号: 18K00535

研究題目: コーパス日本語研究の高度化と多面化のための総合的研究—語史研究への応用を中心に—

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

渋谷 勝己 教授

1959 年生。東京外国語大学大学院外国語学研究科日本語学専攻修了、大阪大学大学院文学研究科日本学専攻中退。学術博士（大阪大学）。梅花女子大学講師、京都外国語大学助教授、大阪大学文学研究科准教授等を経て、2009 年 4 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本語学

1. 論文

渋谷勝己「言語間の格差」『井上史雄・田邊和子編『社会言語学の枠組み』くろしお出版, pp.45-62, 査読無, 2022/11/25

渋谷勝己「スタイルを組み込んだ文法研究—ことばに働く2つの力に注目して—」『日本語文法』第 22 巻第 2 号, pp.121-136, 査読有, 2022/9/30

渋谷勝己「ボトムアップの標準化」高田博行・堀田隆一・田中牧郎編『言語の標準化を考える—日中英独仏「対照言語史」の試み—』大修館書店, pp.38-61, 査読無, 2022/5/12

Shibuya, Katsumi “Language, economy, and nation.”, Asahi, Y., M. Usami and F. Inoue (eds.) *Handbook of Japanese Sociolinguistics*, Berlin: Mouton de Gruyter, pp.629-652, 査読無, 2022/4/4

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本語学会・評議員, 2009 年 6 月～現在に至る

マシュー・バーデルスキー 教授

1967 年生。2006 年カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 大学院東アジア言語文化科 PhD 修了。カリフォルニア州立大学ロングビーチ校非常勤講師、スワスモア大学 (米ペンシルバニア州) 客員助教授・メロン財団ポストドックフェロー、同准教授を経て、2011 年 10 月大阪大学文学研究科准教授、2015 年 4 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：日本語学

1. 論文

BURDELSKI, Matthew, Cekaite Asta(共著) “Practices of peer inclusion: Recruitments to play in Swedish and Japanese preschools (with A. Cekaite)” *Research on Children and Social Interaction* 第 6 巻第 1 号, pp.30-64, 査読有, 2022/10

2. 著書 (単著・編著)

BURDELSKI, Matthew, Takei, Noriko (共著) ““He’s not Aussie Aussie”: Membership categorisation in storytelling among family members and peers” A. Filipi, B. T. Ta. & M. Theobald, (Eds.) *Storytelling practices in home and educational contexts: Perspectives from conversation analysis*, Springer, pp. 375-401, 2022/7/1

BURDELSKI, Matthew, “Socialization” Church, A. & Bateman, A., (Eds.) *Talking with children: A handbook of interaction in early childhood education*, Cambridge University Press, pp. 120-141, 2022/6/30

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

BURDELSKI, Matthew “Interpersonal touch with preschool children: Guided walking in (sub)urban settings”, The Importance of touch during the time of COVID, <https://commstudies.utexas.edu/conferences/international-symposium-touch>, テキサス大学オースチン校(対面), 2022/9/24

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

Language in Japan・Advisory Board, 2022 年 7 月～現在に至る

三宅 知宏 教授

1965 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程退学。博士(文学) (大阪大学)。鶴見大学専任講師, 同准教授, 同教授を経て, 2016 年 4 月より大阪大学文学研究科准教授。2019 年 1 月同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻: 日本語学・言語学

1. 論文

三宅知宏「日本語の否定対極表現とアクセント(Ⅱ)ー最小表現の数詞“1”を含む名詞句に助詞“も”が後接する場合ー」『現代日本語研究』第 14 号, pp.1-14, 査読無, 2022/12

三宅知宏「日本語の否定対極表現とアクセント(Ⅰ)ー「不定語」に助詞“も”が後接する場合ー」『待兼山論叢 日本学篇』第 56 号, pp.1-17, 査読無, 2022/12

三宅知宏「日本語の「補助動詞」と「文法化」・「構文」」『岸本秀樹・于康(編)日語語法研究(下)』, pp.192-217, 査読無, 2022/11

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴((2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本語文法学会・副会長, 2022 年 4 月～現在に至る
関西言語学会・編集委員, 2020 年 6 月～2022 年 5 月
日本語文法学会・運営委員, 2019 年 4 月～現在に至る
関西言語学会・運営委員, 2017 年 4 月～現在に至る
日本語学会・評議員, 2015 年 4 月～現在に至る
日本語文法学会・評議員, 2013 年 4 月～現在に至る

高木 千恵 准教授

1974 年生まれ、大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻修了、博士（文学）。神戸松蔭女子学院大学非常勤講師、京都光華女子大学非常勤講師、関西大学専任講師、同准教授を経て、2010 年 10 月より大阪大学文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：社会言語学・方言学

1. 論文

高木千恵「大阪方言のトの分析―引用のト、条件のト、付帯状況の―ント―」『阪大社会言語学研究ノート』第 19 号, pp.58-75, 査読無, 2023/2

Nakane, Ikuko, Kaori Okano, Claire Maree, Chie Takagi, Lidia Tanaka, and Shimako Iwasaki. “Varying orientations to sharing life stories: A diachronic study of Japanese women’s discourse.” *Language in Society*, 第 51 巻第 4 号, pp. 577-602, 2022/9

2. 著書（単著・編著）

高木千恵(共著) 『地図で読み解く関西のことば』昭和堂, pp.161-177, 2022/4/25

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

高木千恵「モダリティ:推量表現の記述の枠組み」, 方言文法研究会研究例会 2023,方言文法研究会(オンライン), 2023/3/27

高木千恵「場面別にみる大学生の多言語環境―ウェブアンケート調査から―」, 言語管理研究会「多言語社会と言語問題シンポジウム 2022-2023」, 言語管理研究会, 千葉大学(ハイブリッド), 2023/3/26

高木千恵「大学生の受動的な言語接触―「見せる調査」「聞かせる調査」の結果から―」, 多言語化現象研究会 第 81 回研究発表会,多言語化現象研究会(オンライン), 2023/1/8

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

Thirty Years of Talk: A Longitudinal Study of Language Variation in Kobe Ethnographic Interview Discourse (1989-2019), メルボルン大学・ラトロブ大学・モナシュ大学(オーストラリア)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本方言研究会・世話人, 2021 年 5 月～現在に至る

日本語文法学会・学会誌委員, 2019 年 4 月～現在に至る

眞野 美穂 准教授

1977 年生。神戸大学大学院文化学研究科修了。博士（学術）。関西看護医療大学専任講師、鳴門教育大学専任講師、同准教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：日本語学

1. 論文

眞野美穂「数量詞を含む同格構造についての再検討—同格名詞句との比較から—」『現代日本語研究』第 14 号, pp.15-27, 査読無, 2022/12

Yo Matsumoto, Kimi Akita, Miho Mano 他 “Chapter 3. Linguistic representations of visual motion,” L. Sarda & B. Fagard (eds.) *Neglected Aspects of Motion-Event Description. John Benjamins*, pp. 43-67, 査読有, 2022/7

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

Yo Matsumoto, Badema, Miho Mano 他 “Types of caused motion events and the patterns of their linguistic representations,” The 14th conference of the Association for Linguistic Typology, The Association for Linguistic Typology, The University of Texas at Austin (ハイブリッド), 2022/12/15

眞野美穂「名詞述語文による事象叙述」, 日本言語学会 第 164 回大会, 日本言語学会(オンライン), 2022/6/19

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 眞野美穂

課題番号: 18K00615

研究題目: 日本語名詞の意味機能と統語的特性: 同格名詞句と文法化現象からの検証

6-2. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:眞野美穂

課題番号:21K00761

研究題目:第二言語学習者の様態副詞の使用についての多角的分析:英語・日本語を対象に

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本語文法学会・学会誌委員, 2022 年 4 月～現在に至る

関西言語学会・オンライン開催実行委員, 2022 年 3 月～2022 年 6 月

関西言語学会・大会委員, 2021 年 4 月～2023 年 3 月

李 頌雅 助教

1990 年生。2021 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程(文化表現論専攻)修了。博士(文学)(大阪大学、2021 年)。
2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻:日本語学/日本語教育学/語用論。

1. 論文

李頌雅「日本語のチューター活動における訂正－会話分析の観点からの一考察－」『阪大日本語研究』第 35 巻, pp.27-56,査読
無, 2023/2/28

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

李頌雅「能楽稽古のマルチモーダル会話分析－能楽師による仕舞の説明及び生徒の反応に着目して－」『社会言語科学会第
47 回大会発表論文集』, pp.91-94, 査読無, 2023/3

4. 口頭発表

李頌雅「能楽稽古のマルチモーダル会話分析－能楽師による仕舞の説明及び生徒の反応に着目して－」, 第 47 回社会言語
科学会研究大会,社会言語科学会,東京国際大学(対面), 2023/3/18

李頌雅「能楽の稽古場面における指導行動のマルチモーダル会話分析:指導者はどのように身体動作の訂正を行うのか」, 日本
語用論学会第 25 回大会, 日本語用論学会, 京都大学(ハイブリッド), 2022/11/26

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし